《第６回全体学習》

同和問題（道徳）学習指導案

1993年11月25日５校時

３年Ｂ組　授業者　　豊田　淳子

１．主　　題　　真実を求めて

２．主題設定の理由

板野中学校に赴任して３年目になる。この学校で初めて見た同和問題の全体学習のことが、今でも脳裏に焼き付いている。最初はいったいどんな授業になるのだろうかと興味津々の心と、５クラス全員が入っての授業が成立するのだろうかという心が入り乱れていた。５時間目が終わり、６時間目の全体学習。生徒たちの意見に知らず知らずのうちに、涙を流していた。「教師が泣いたらあかん。本当にこの世から、部落差別がなくなったときに涙を流せ。」と先輩から聞いた言葉が胸に突きささった。まだまだ私は差別心をもった弱い弱い人間である。ふり返ってみれば、今までの私の同和問題学習における授業への取り組み方といえば、うわすべりで差し障りのないものだったと反省させられる。私のような安易な人間にとって、この板野中学校の全体学習は、自分をかえりみ、戒める場となっているのは確かだ。

３年Ｂ組35名。昨年度から引き続き担任をする生徒が８名。すぐ心が通いあうだろうと期待していた私の考えは甘かった。「前のクラスがよかった。今のクラスは‥‥」と言ってくる生徒が数名いた。このままではと思い、まずクラスの級訓作りに入った。「一生懸命」これが我がクラスの級訓である。この四文字に含まれた意味を、生徒たちはどのようにとらえているであろうか。

１学期、第１回目の全体学習で、Ａ子が「私は学習会に参加しています。いつも先生から学習会の計画表をもらうのがとても楽しみです。」と発言した。私はＡ子のすぐ後ろにいた。Ａ子は肩が微妙に震えてはいるものの、大きな声で堂々と部落宣言をしたのである。しかし、Ａ子の声は涙でとぎれとぎれになってきた。Ａ子の思いをなんとかつなげたい。そんな気持ちで、私は思わず挙手していた。正直なところ、学習会の通知を生徒に渡すとき、いつ手渡したらいいのだろうかと、いつも私の心は動揺していた。しかし、Ａ子はその反面、教師である私がしっかりしなくては、この子たちが部落差別という厚いかべによっておしつぶされると痛感した。そして、これからの私が教師としてでなく、人間としての生き方を問われる一年間だと思った。翌日Ａ子は次のような感想を書いてきた。

『私は今日はじめて部落の人間であることをみんなに言った。泣きたくなかったけれど、心にこみあげてくるものがあって、心では支えきれないものがあった。‥‥みんなが私に心を開いてくれたことがすごくうれしかった。このことは私が生きていく中で、絶対忘れられない体験になったと思う。私は先生やみんなにありがとうを心から言いたい。私の気持ちをわかってくれたし、立ち向かう仲間になってくれたことにすごく感謝している。私が発言した後、豊田先生が続けて発言してくれたので、うれしかった。』

Ａ子のように、学習会に通い、不合理な部落差別と闘っている仲間がクラスに数名いる。その中の一人、昨年から引き続き担任をしているＢ子は、２年生の時の同和問題学習では、いつも下を向き、全く発言できない状態だった。それが、第３回目の全体学習の時に、初めて挙手

をし発言したのである。翌日の感想に、
『今日、私は、学習会で発表したとき、２回とも泣きそうになりました。でも、泣いたら負けだと必死にこらえました。同和問題学習をするのが、すごくつらくて、発表するたびに涙で声がつまってしまって、このままじゃいけない、今の私のままではきっと高校にいってから、社会に出てから、ながされそうで不安だ。先生は私を強くなったと言うけれど、ぜんぜんそんなことないと思う。かえって弱くなったような気がする。去年までは涙が出てくることなんてこと無かった。先輩が、涙を流して語っているのを見て、どうして涙が出るんだろうと思っていた。でも今年になって分かったような気がする。部落差別がそれだけつらいんだということを‥‥。』
と書いてきた。Ｂ子は、学習会の通知をもらっても、学習会に全く出席していない現実がある。しかし、確実に彼女は強くなった。対象地区に生まれたことの事実を真摯に受けとめ、どうにかしてクラスのみんなと差別解消に向けて闘いたいという姿勢が見られるようになった。
　２学期が始まった。中学生最後の体育祭と文化祭。文化祭での劇は予想以上の悪戦苦闘があった。クラスの中で数名が協力せず、文句ばっかり言う現状があった。そして、やはりそれがある日爆発した。文化祭の四日前である。放課後、遅くまで話し合いさせた。あちらこちらから本音がとび出し、女子の中にはすすり泣く者もいた。翌日のあゆみに
Ｃ男が
『この問題はぼくらが解決するから先生は見ていてくれ。』
Ｄ子が
『今日の思い出は絶対忘れないと思う。泣いた人もいた。私もポロッときた。クラスが消えるかと思ったほどすごかった。一人一人が自分なりに熱く燃えていたと思う。そうしたことがあったから、今の私たちがあるんだと思う。私たちは絆を手にしたかもしれない。』
Ｅ男が
『夏休みの登校日も何もせず、かげでじっと見てていた。しかし、その時すごく胸が痛かった。何かしなければと自分の心の中で思った。それがやっと行動に移せた。こんなアホな僕でも、人の気持ちが分かってあげられた。他の人も、人の気持ちを分かろうとしてほしい。そして、みんなでしんだい思いをし、苦しい道を歩きながら頑張りたい。今日で自分自身すごく成長したような気がした。先生も一緒に頑張りましょう。』
　このＥ男のあゆみを私は涙ながらに読んだ。話し合いをさせたことで、３Ｂがひとまわり大きくなったような気がした。生徒は生徒なりにこの壁を乗り切ってくれた。できはどうであれ、３Ｂ全員が１つのことに取り組むことができたということが、私の大きな喜びとなった。
　この体育祭や文化祭のちょっと前に、転校生があった。彼女は部落問題学習を全く受けた経験がなかった。その彼女がクラスでの話し合いに積極的に参加し、発表もできた。
　その翌日のあゆみに、
『今日部落の話をしました。帰って来て話をすると、私も部落ということを知りました。でも、気にしません。気にしたら負けだから。私はお母さんが部落だそうです。お父さんは違うけど、お父さんはお母さんが部落の人と知っていて、堂々と結婚したそうです。世の中にはそんな人もいるのです。私にもきっとそんな人がいると信じて、部落ということを隠さず生きていきます。』という力強いあゆみを目にすることができた。この板野中学校に転校して初めて、自分

が部落出身だと知った彼女である。前の学校では、登校拒否ということでほとんど欠席であった。転校してきたときは、朝早くから登校し、わからない授業も熱心にノートをとり、どうにか学校へ来ることができていたが、３カ月たった今、身体の調子が悪いという理由で、ほとんど休みがちである。そのためクラスの仲間と同和問題学習で語り合う機会を得ることができなくなった。どうにかして彼女を学校へ来させたいということがＢ組の大きな課題となった。

このように生徒たちは、同和問題学習に真剣に取り組んでいるものの、ほとんどの生徒が家庭で崩されていく。Ｆ子もその一人である。Ｆ子は養護学校へ通っている弟がいる。情緒障害という病気をひたすら親は隠し、地元の学校をさけ、徳島の学校まで通わせている。Ｆ子が小学校の頃、弟のことで友達からひどいことを言われ、差別を受けたらしい。しかし、今は担任の私に弟のことを相談するまでになった。Ｆ子は障害者差別も部落差別と同じくらいきびしいと考え、どうにかして親の気持ちを変えようと、日々努力はしているものの、話し合いどころか一方的に言い負かされて、泣くしかない状況である。「私は同和問題を真剣に取り組んでいるのに、こんなに近い人が差別心をたくさん持っていたとは思いませんでした。先生本当につらいです。こんなに信じていた人が、もうもとにはもどれません。先生助けてください。」と手紙に書かれてあった。Ｆ子の心の叫びである。Ｆ子は愛する弟のためにも、一日も早くこの世からあらゆる差別をなくさなくてはならないと、強く願っているに違いない。職員室に来るたびにＦ子に、両親との話はどうなったか尋ねるが、返ってくる答えは、「先生やっぱりあかんわ」である。担任として私は、どうにかしてＦ子を救いたい。しかし、今の私にできることはＦ子を励ますだけしかなかった。そして彼女が全体学習で自分の思いを発表することを、影ながら応援するしかなかった。自分の力のなさに茫然となり、しかし、ここから絶対逃げてはいけないんだと心にいいきかせた。

３Ｃの公開授業と全体学習に向け、どのクラスも「私の目をみて！」の授業が始まった。夏休みをはさんだせいか、一学期の熱さが失われている。３Ｂも一定の決まった子の発表にとどまり、前に進まないことがたびたびであった。部落出身のＡ子とＧ子が中心となり、あと数名の部落出身の生徒の発言に終わってしまう。本当は地区外の生徒の意識の変容を目標としているのに。地区の生徒がいくらがんばっても差別はなくならない。地区外の生徒ががんばらなくては、と授業のたび言うのであるが、下を向いて他人の事としかとらえることのできない者がやはりいる。私の力のなさに自暴自棄になりそうになるが、部落出身の生徒の顔を思い出すと、胸がしめつけられるのである。

そして迎えた９月30日、第４回の全体学習。Ｂ子が「Ｂ組ではなかなか発表することができない。私が言ったことを変に思っている人がいるかもしれないから。」と発表した。それに応えてて、クラスの半数の者が発表した。翌日地区出身のＪ子が、

「クラスの約半分の人が発表してくれて、とてもうれしかったです。今までクラス内の同和問題学習でさえ、ほとんど発表しなかった子も今日は発表していました。私の意見で一人でも変わってくれる人がいるとわかって、今日はとても前進することができたと思います。これからも頑張りたいです。」

とよろこびの気持ちを書いてきた。また、この全体学習を契機に勇気をとりもどすことのできた生徒もいた。ほんとうに、ほんとうに少しではあるが前進したと思った。しかし、こんな意見をもった生徒もいた。部落出身のＨ子は３Ｃの授業を見て、

「みんなすばらしい意見を言ったけど、これからどうしろと言うことなのかわかりません。」と訴えた。彼女は以前あゆみに、

『今日先生が私の作文に書いてあった“泣いてやるもんか。死んでやるもんか。”っていうところに気付いてくれたのですごくうれしかった。本当に差別なんかのために泣いてはダメだと思う。泣いてたら前は見えないし、死んだら何もできないし、差別に泣くとかいう弱味見せたら、絶対つけ込んでくるやついると思う。涙を流すぐらいなら、その時間だけ、前を見ていたいと思う。』

と書いてきた。彼女も第４回目の全体学習で部落宣言をした一人である。以前は同和問題なんか自分に関係ない、というふうな態度をとり、授業中一度も前を向かなかったのであるが、今ではクラスの中心的な存在になり、堂々と意見が言えるまでになった。ある日、彼女が私に「先生、私変わっただろ。絶対頑張るから。」と言ってきた。彼女の心の中で、何が起こったのであろう。確実に強くなった。

同和問題学習は、すべての教育の中核に据えられるべきものである。全体学習では、心を揺り動かすようなことを発言できても、それが日々の学校生活に生かされていないことが多いように思われる。口先だけのことで、心がついてきていないような気がする。まだまだ仲間になりきっていない、まだまだ絆が見えない。そんな思いをすることがある。残り４カ月間で本当の仲間の絆をつくっていきたい。また11月ともなると生徒たちは、自分の進路を真剣に考えるようになってきている。以前に厳しい就職差別があり、「部落地名総監」などの差別図書が再版され、これらを購入している企業があるということである。そこで本資料「Ｙ子は獅子になった」を学ぶことにより、就職差別が人間としての生き方の中で恥ずべきものであることを知り、Ｙ子の生き方を学ぶことで、解放の主体者となっていくことを願い、本主題を設定した。

３．ねらい

就職の機会均等が完全に保証されていないことが、生存権を脅かしていることを理解させ、差別と闘うことの大切さを理解させ、差別解消への意欲と実践力を養う。

４．視点　　人権と差別

５．指導計画

（１）これまでの学習

・道徳　「峠」……２時間
・道徳　「母の願い」（全同教福岡大会）……２時間
・第１回全体学習　「母の願い」（全同教福岡大会）……２時間
・道徳　「自分以下を求める心」（佐藤文彦）……２時間
・第２回全体学習「自分以下を求める心」（佐藤文彦）……２時間
・道徳　「意識の芽ばえ」（丸岡忠雄）……２時間
・第３回全体学習「意識の芽ばえ」（丸岡忠雄）……２時間
・道徳　「私の目をみて！」（土方鉄）……２時間
・第４回全体学習「私の目をみて！」（土方鉄）……２時間
・道徳　「ゴンタこそがたたかいを」（青野修平）……２時間
・第５回全体学習「ゴンタこそがたたかいを」（青野修平）……２時間

（２）本時の学習

・道徳　「Ｙ子は獅子になった」（岡本顕史朗）……２時間

・第６回全体学習「Ｙ子は獅子になった」（岡本顕史朗）……２時間（本時1/2）

（３）これからの学習

道徳　「水平社宣言讃歌」……２時間

６．本時の指導

（１）目標

Ｙ子の絵に込めた願いを考えるとともに、世間の差別意識に惑わされない強い自分を探し、「いつかはふるさとに帰ってきます」と言い切るＹ子の思いを話し合う中で、部落差別解消に積極的に取り組む態度と実践力を育てたい。

（２）展開

学習活動	指導上の留意点
(1)この資料を読んで、何を感じ、何を学んだかについて話し合う。	・最も心に残ったところはどこか、それはどうしてかを考えさせる。 ・「世間」とはどういうものであるか考えさせる。 ・企業が不合格理由を説明せず、学校も十分に取り組めなかったことを考えさせる。
(2)Ｙ子の絵に込めた思いを発表する。	・自分の思いとしてとらえさせる。 ・故郷に帰ってくるという思いについて考えさせる
(3)この資料を学習して、自分はこれからどう生きていくのかについて話し合う。	・同和問題とかかわって、今後自分はどう生きるかを語らせる。

【資料】

Ｙ子は獅子になった

「十年ひと昔というならばこの物語の発端は今からふた昔半もまえということになる。」

（壷井栄「二十四の瞳」より）

久しぶりに手にした一枚の色褪せた色紙が私をふた昔半以上前の青春時代へと導き始めた。

昭和37年11月初旬。大学４年の私は教員採用試験を受けるために比叡山へと向かった。京阪電鉄石坂線（石山寺・坂本間）を走っている電車は古くてマッチ箱のように小さかった。比叡連峰と琵琶湖に挟まれ、細長く鰻の寝床のように伸びている大津の街中をその小さな古い電車は悠長に走っていた。終点のＳ駅は田舎者の私には初めて見る神社造りの駅舎であった。駅前広場に出て余りにも見事な景色に私は暫時茫然と佇んだ。鬱蒼とした比叡の山、その山麓はなだらかな丘陵となって広がり到る処に幾何学模様の段々畑があった。山から視線を外すと陽光をあびてキラキラと湖面が鏡のように輝く広大な湖が視野に飛び込んできた。こんな別世界のような美しい風景の下で人々が喘ぎ苦しみながら生きていることを私は知る由もなかった。

校長室は絨毯も敷かれていなければ、飾物ひとつ無く机とパイプ椅子のみでそこで面接が行なわれた。当然校長は来春から私が勤めてくれるものとひとりで決めこんで学校の状況を種々説明してくれた。未だに自分の進路を決めかねて曖昧な態度でやって来た私にこれが自分の運命かと思わせるほど校長の話は真剣味があった。１時間ちかく殆ど校長ひとりが喋ったあとで言った。

「何か質問があればどうぞ。どんなことでも結構です。」

「私は勤めだした時、どちらを向いて仕事をすれば良いのでしょうか。」

「どういう事でしょうか、具体的におっしゃって下さい。」

「生徒の方を向いて仕事をすれば良いのか、それとも学校の方を向いて仕事をするべきなのでしょうか。」

「君はどう考えますか。どの様にしようと思っていますか。」

「いつも生徒の方へ顔を向けて仕事をしようと思います。」

「結構です。君の考えどおりにして下さい。教育は教師の自主性やロマンがなければ駄目だと思います。」

当時の校長室は貧しく簡素であったが、校長は凄かった。大学生を相手に自分の教育理念を披瀝してくれた。あの時の校長のひとことがそれ以後の私の教員生活に多くの影響をあたえたのだ。

昭和38年４月。大津市Ｓ町へやって来た。Ｓ町は千古の昔より比叡山延暦寺の門前町として栄え歴史の古い由緒ある閑静な町である町は一区から九区までに区画されていた。私は少し離れた湖畔の農家の「離れ」に寄宿した。年老いた農婦がひとりで細々と農作業をしながら私の食事の面倒をみてくれた。

新任１年目から３年生の商業科クラスを担任した。当時は戦後の第一次ベビーブームの生徒たちが高校に入り、１クラス60名の生徒で溢れていた。出席簿を見て驚いた。同姓の生徒たちが多くいたことだ。山本・山下・山口・山田姓の生徒が20余名も居た。先生に伺うと比叡の「山」の下、口、本、田から付けられたものだと言う。すべて六区から九区の、あのなだらかな丘陵地帯に住いする者だと言う。先生や生徒たちは彼等を姓で呼ばずＡ男、Ｂ夫、Ｃ子などと名前で呼んでいた。当然姓だけでは誰のことか判らないからだ。そして１年後に私に強い衝撃を与えて去ったＹ子もそんな仲間のひとりであった。かれらは皆明るく素直でのびのびとしていた。特にＹ子は成績優秀でテニス部の主将をしており優しい心根の美しい少女であった。若くて独身の教師の

利得かどうかは知らないが、彼らは毎晩のように私の「離れ」に遊びにやって来、自分たちの将来や夢について若々しい希望を語り合った。

その当時の就職試験は時期が早く５月頃から順次行なわれていた。Ｙ子はスポーツ能力にも富んでいたがそれ以上に美術的能力に恵まれていた。Ｙ子は自らの意思でＴデパート京都支店を選んだ。ダイエー等の大型量販店の出現していない時代で、三越・大丸・Ｔが三大デパートとして君臨していたのだ。叡山高校から10名ほどの女生徒が志望していたが、その中でＹ子がすべての面で群をぬいて優秀であった。

テストが終わった６月末の夜、Ｙ子はひとりで「離れ」にやって来た。

「どうした。Ｙ子」

「先生、駄目だと思います。」

「テストが出来なかったのか。」

「いいえ学科テストは全部出来ました。」

「それなら大丈夫だろう。」

「いいえ駄目だと思います。」

「どうして。」

「・・・・・・・・。」

口を噤んで涙を流すＹ子からやっとの思いで聞きだしたのは次の様なことだ。当時新しい方法として集団面接が行われ、Ｙ子も10名程度の受験生と集団面接をうけた。順番に学校名・氏名・現住所を言ったのち、面接官がＹ子に「本籍地」を尋ねた。大津市Ｓ町Ｘ番地とＹ子は明るくハキハキと答えたが、１時間ほどの面接でＹ子が口にできた言葉はそのひとことであった。誰一人としてＹ子に質問をしなかった。屈辱的な扱いに震えながらじっとＹ子は耐えたと言う。毎晩のように「離れ」にやって来るＹ子たちの住いは六区から九区であり、そこはまた、滋賀県最大の「未解放部落」とも呼ばれていた。

「先生、（未解放）部落を悪いと思いますか。」

「いいや、全然思わない。」

「でも違うでしょ。」

「なにが違うんだ。君は利発で賢い子だ。君の皮膚の下にも、私の皮膚の下にも同じ日本人としての熱い血が流れているだろう。どこが違うんだ。ただ君が部落と呼ばれている処に生まれただけだろう。それがどうしたというのだ。君と私は同じ日本人、否、人間同士と違うのか。」

Ｙ子は自分の内部に積もりつもった苦しみを吐き出すかの様に反発してきた。

「先生だからそんなふうに言ってくれますが、世間は違います。世間は私たち（未解放）部落の人間を一方的に差別します。」

「まてＹ子、世間ってなんだ。世間というひとつの生きものがいて、そいつが君たち（未解放）部落の人を差別するのか。」

「・・・・・・・・・・。」

「違うだろう。私が世間だ、Ｙ子、君が世間だ、Ａが、Ｂが、Ｃが一人ひとり世間なんだよ。本当は一人ひとりの人が『世間』という実体の無いものを隠れ蓑にして個人の意思で差別しているのではないのか。」

「・・・・・・・・・・。」

「Ｙ子、君もやがて数年後には結婚をするだろう。仮に君が（未解放）部落外の男性と恋に落ちたとしよう。彼の親は君にきっとこう言うだろう。『貴方はいい人だと思います。でも世間が

（未解放）部落の人との結婚を認めない状況では、私たちも息子と貴方の結婚を認めることはできません。』と。Ｙ子その時君はこう言っておやり、『お母さん（お父さん）貴方が世間ですね。きっとそうなんですよ。』と。」

Ｙ子は来た時よりもずっと明るい表情で帰って行ったが、逆に私の気持ちはＹ子のこれから先を考えると滅入る一方であった。

数日後、予想どおりというかＹ子一人が不合格になった。企業は事情を説明せず、学校も企業に問い合わせなどしない状態であったが、Ｙ子はもう涙を見せなかった。

同対法が制定されるのは、ずっと後のことゆえ、Ｙ子たちの住む（未解放）部落は貧しく、差別の嵐は吹き荒んでいた。誇りまみれの道は細く曲がりくねっており、Ａ男の傾きかけた家にはムシロしか敷かれていなかった。１年前私がＳ駅前広場から眺めた美しい段々畑も本当は平地に良い土地を与えられない人々が山の急斜面を切り拓いて作った畑で米はとれず、下から水を運びながら僅かばかりの野菜を作っているのだと判った。樹木の生い茂る山裾に住みながら叡山への「入会権」を認められない人たちは、燃料の薪として湖畔に打ち上げられた流木を拾って利用していた。私が一見の観光客であれば美しい眺望にすぎなかった「比叡」の下で差別に苦しむ人々の姿は見えなかったであろう。どこの世界にも二重構造というものはあるものでＹ子の家は立派で大きく経済的に豊かであった。Ｙ子は東京の美術関係の専門学校へ進学することになった。

２学期、生徒たちは相変わらず毎晩のように「離れ」にやって来た。Ｙ子は何事もなかったかの如く以前の明るい少女になっていた。

私学の２学期は無いにひとしい。１月末で生徒たちは登校しなくなり家庭で卒業を待つのだ。学校に姿を見せない彼らは以前にも増して足繁く「離れ」にやって来た。ところがＹ子の姿がばったり消えた。聞くと家に閉じこもったきりで外出しないということだ。病気かと案じられたがそうでもないらしい。卒業式が迫ってきた。前日は家で家族と過ごせと皆に命じた。卒業前夜、突然Ｙ子が一人でやって来た。三和土で立ったまま一枚の色紙を差しだした。

「先生、私が一生懸命心をこめて描きました。」

「有難う。あがれ。」

「先生、高校最後の年に出会った事を私は一生忘れません。」

つぶらな瞳から溢れた珠のように美しい一雫の涙が地につく前にＹ子は帰って行った。色紙には極彩色で２頭の親子獅子が描かれていた。親獅子は優しい表情で後ろの子獅子を振り返って見つめていた。子獅子は険しい怒りの目で、鬣を逆巻き尾を荒々しく立てていた。子獅子の体全体が怒りに燃えていた。翌日厳かに卒業式が行われた。当時の生徒たちは殆どの者が涙を流した。式後Ｙ子が母と挨拶に来た。目を真っ赤にした母は娘ひとりを東京に出す不安を口にした。東京は未だ新幹線も高速道路も通じていない遠い空の彼方にあったのだ。母と違ってＹ子は決然としていた。

「先生、私は古里を出て行きますが、決して捨てるわけではありません。東京で私は先生のように世間の常識に惑わされない強い自分を探そうと思います。いつかは必ず古里へ帰って来ます。」

強い口調に私はＹ子を見つめてハッとした。Ｙ子が子獅子になっていた。色紙の中の怒りに燃えた獅子になっていた。

Ｙ子は東京へ去った。ぼくも５年後に叡山を去った。

（出典・「すみよし」37号、徳島県立徳島商業高等学校・岡本顕史郎）

※

〈本冊子の表紙にＹ子さんが描いた獅子の絵をつかわせていただいた〉

【授業記録】第６回全体授業　　資料『Ｙ子は獅子になった』

1993年11月25日（木）５校時

授業者　３年Ｂ組　豊田　淳子

Ｔ（森口）３Ｂのみんなにとってね，この授業をしてよかった，そういう授業になるようにがんばっていってほしいと思います。手元の資料「Ｙ子は獅子になった」そのファイルの表紙にある色紙の絵ですね。その資料を書いて下さった徳島商業の岡本先生がおいでてくれてます。最初に授業の前に５分ほどお話をしていただいて引き続き３年Ｂ組の授業にうつりたいと思います。（全体：起立・礼）

岡本：こんにちは。徳島商業の岡本です。１学期の６月の中ごろだったと思いますけど，１回君らと会いました。そこで「意識の芽ばえ」という１年から３年まで集まった全体学習を後ろで見させてもらいました。ですから今日が２回目です。非常に大切な君らの話し合いの時間ですから詳しい話はできないのですが，あの時，６月の「意識の芽ばえ」の授業を見せてもらっての感想を一つだけ言っておきます。ぼくはいつも新しい先生方が変わって来た場合に，いろんな先生と話をするのに「自分にとっての一番身近な部落はどこにあるか」というのをいろんな先生と話をするんです。多くの先生が「そうですね，ぼくの所の一番身近な部落って言ったらＡ町かなあ」とか「Ｂ町かなあ」とか「Ｃ町かなあ」とかいうふうに言います。中には「私の周辺で身近な部落はありません」という先生もおります。その時にぼくはいつも話をするんですが，そういうふうな具体的なＡ町やＢ町でなくて，先生が担任をしているクラスに毎朝行って，４０数名の座っている生徒を見て，その中にいわれのないという差別の重荷を背負っている生徒は一人もおりませんか，というふうに話をするんです。仮に受け持ちをしているクラスにそういう生徒がいなくても，高等学校で大体５クラスほどの授業に先生は行くんですけども，その授業を教えに行っているクラスにそういうふうないわれのない差別を背負わされてきている生徒はおりませんか，と。必ずいるはずです。そこが自分にとって一番身近な部落とちがうんですか，という話をするんです。ですから，ぼくはずっと前から自分にとって一番身近な部落は毎日授業に行っている教室がそうだと６月まではずっと思っていたんです。ところが６月にこの体育館で名前は忘れましたけど３年生の男子の発言に教えられたんです。「自分にとって一番身近な部落というのは自分の心の中にありますよ」ということをある男子が発言してましたが，それを聞いて，ああ本当だなと，自分にとって部落というのは心の中にいつもあるんだなと。この話を聞いていつも思うのは，ぼくはできるだけ部落という言葉，あるいは差別という言葉を聞いても，いい意味にしても悪い意味にしても自分が動揺しないように平常心で話を聞けたり言えたりしたらいいなと，それもずっと思っていたんです。それも６月に教えてもらったんです。平常心で普通でおったらやっぱりあかん，ということをこれも誰か３年生の女子の人が話をしていてこれも教えられたんです。やっぱり部落とか差別という言葉を聞いた時に普通の気持ちでおるんでなしに，その言葉に対しては激しい怒りを抱かんといかんのやなあと。怒らんといかんのやなあということを同じくこの今座ってる中の誰かの発言で教えてもらいました。それと今日「Ｙ子は獅子になった」ということで授業を見せてもらうんですが，始めは差別を受けて涙を流していた女の子なんです。最後には自分でちゃんと絵を描いてそういうふうに揺れながら１年間の間に成長していった生きざまというのを通じて君らが１時間，Ｙ子の生きざまを通じて自分自身の思いとか意見を一生懸命語ってくれるだろうと期待しています。がんばってください。

Ｔ$_1$：では最後の全体学習に入ります。ちょっと風邪をひいて聞きづらい，聞き苦しい点もあるかもわかりませんが，この１時間一生懸命３Ｂがんばります。そして、他のクラスの人はた

だ見るんじゃなくてあなたたちも参加してるんです。だからこの１時間，他のクラスの人たちもしっかりとＢ組の意見を聞いてください。授業に入る前にこういう作文があるので紹介します。

「今日先生が私の作文に書いてあった《泣いてやるもんか。死んでやるもんか》っていうところに気付いてくれたんで本当にうれしかった。ほんまに差別なんかのために泣いたらだめだと思う。泣いとったら前が見えないし，死んだら何もできないし，差別に泣くやいう弱味見せたら絶対つけ込んでくるヤツいると思う。別に何言われたって何も泣いたりしなかったら差別より強いぞって思うと思う。部落差別のために涙や流したらものすごくもったいないと思う。涙を流すぐらいなら，その時間だけ前を見ていたいと思う」

という思いを３Ｂのある女子が書いてきました。この１時間下へ向くんじゃなくって前を向いて一生懸命授業をみんなが作ってください。みんなのための授業です。

「Ｙ子は獅子になった」を何時間か学習しましたが，最後です。この「Ｙ子は獅子になった」を読んでですね，何時間か授業をして憤りをおぼえたり，ここがおかしいのではないだろうかというところがあったら，発表してください。

どうですか。何か感じたでしょう。感じなかったらおかしいよ。感じたところを何でも結構ですから言ってください。

YH(女)この資料を読んでいて「世間は違う」っていうところが２枚目の最初のほうにあって，世間が差別しているっていうことを用いて自分が差別しているのを隠しているのはおかしいと思いました。

KN(女)私もYHさんと同じところなんですが「先生だからそんなふうに言ってくれますが世間は違います」って先生に訴えているところで，本当に差別と闘うつもりだったら先生にそういうふうに先生をせめて先生に理解を求めるよりも周りに訴えていったほうがほんとはなくなるんじゃないかって思いました。だからこの時まだＹ子は周りに訴えるっていうことに気付かずにまだ強くなれてなかったと思います。

Ｔ$_2$：今Ｋさんが言った，先生だったらわかってくれるから，で先生に言ってたのですが，他にはわかってくれん人がまだたくさんいる。その人に言っていくべきである。その時のＹ子さんていうのは先生に言っていった時のＹ子さんはまだ弱いＹ子さんだったと。っていうふうにＫさんは言ってくれました。頭の中に覚えておいてくださいね。

OY(女)私がこの文章を読んだ時に，面接官がＹ子に質問したのは，住所だけって書いてあるところがあって，１時間もあるのになぜＹ子にはそれしか答えさしてあげなかったのかが本当に腹たって，本籍地まで聞かれて自分は明るくはきはきと言ったのに，その時点から差別されていたＹ子って本当にかわいそうと思うし，自分では耐えれんと思うけど，この差別に立ち向かっていったのはＹ子自身であるし，私だってかわいそうっていう同情や言える立場でないから，私も強い人間になっていきたいと思いました。

Ｔ$_3$：今「かわいそう」という言葉が出たけど「かわいそう」はYAちゃんは同情じゃと。かわいそうと言える立場でないと今YAちゃんは言ってくれました。

HY(女)Ｙ子がＴデパートを受けた時のことなんだけど「Ｙ子は全ての面で群を抜いて優秀であった」って書いてあるのに，不合格にした企業の方も気になるけど不合格になったって知っているのに企業の方に問い合わせをしなかった学校の方がすごく気になりました。

Ｔ$_4$：企業に問い合わせをしなかった学校側が気になると。この話後でしますが，今手を挙げてくれた人の意見を聞いてからします。

YE(女)「世間が部落の人との結婚を認めない状況」というのにひっかかりました。自分の意見を

言わないと世間っていうて自分が差別していることを隠しているっていうのがこれでわかります。

T 5：また世間の話が出ましたが世間な，もう一回後で考えますからね。

NA(女)最初これ読んだ時，何で岡本先生立ち上がって企業に言っていかなかったんだろうかと思ったんですが，前学習会に岡本先生がいらっしゃった時，聞けませんでした。何でかっていったら，今やっと自分のことのように思えてきて，やっぱり一人で立ち上がるや難しいだろうなあって思い始めて，私だったら一人でそんなこと言っていくことできないのに，できないことを人に何でできなかったんて言うことは，やっぱりおかしいと思って聞けませんでした。

MH(女)私は最初資料を読んだ時に，「あの時の校長先生の一言がそれ以後の私の教師生活に大きな影響を与えたのだ」っていうところで，そんなすごい校長先生がどうしてＹ子が就職試験に落ちた時に企業に問い合わせをしてくれなかったのかなと不思議に思いました。

T 6：さっきＨさんが言ってくれたこととちょっと似ていますね。

MO(女)自分の意見でなしにYHちゃんに質問なんやけどな，YHちゃんさっき世間について言っていたでしょう。私あれの意味がなにかわからないのですが。

T 7：じゃあ世間についてYHさんが一番最初に言ってくれたところをゆっくりとしゃべって下さい。みんなによくわかるように言ってください。どうぞ。

YH(女)Ｙ子が「世間は違います」って言った時に，後で先生が「世間っていうのは私やお前だ」って言った時に，私たちは世間という言葉を使って自分の差別心を隠して人を差別しているんだと思いました。

T 8：わかったですか？じゃあ，先生を例に挙げると，先生も世間の一人でした。前にいた学校がですね，非常に大きな，うちの学校よりも２倍ぐらいかな，対象地区があった学校だったんですが，その時に先生が赴任していく時にその前の前の学校の先生が「先生，〇〇中学校に行くんだったら大変だから，この竹刀でも持って行きますか」っておっしゃって竹刀をくれようとしたんですね。竹刀です，わかりますか，剣道に使う竹刀です。私は何をおっしゃりたいのかわかりませんでしたが，大変な学校に行くんだろうと心の中で思いました。対象地区が５０何パーセントもある学校に行くんだろうと。大変だろっていうことだったんですよ。世間がそういうふうに言っていると。その先生も世間の中の一人だったんです。もう一つ例に挙げるとその町内をもし車で通るとするでしょう。そしたらうちの父なんかがよく言います。「気を付けて通りなよ」って。みんなが言っているから。先生も何年か前は，いいえ今もそうかもしれませんが差別者の一人でした。みんなが言っているから，あそこの学校は悪い子がたくさんいるよって。みんなが言っているから，地区が多いからあそこって恐いのよって。みんなが言っているから。先生もそう思っていました。それが世間だったのです。先生も差別者の一人だったのです。差別心をなくすためにみんなとがんばっています。みんなもよく考えてください。心の中に世間の一人になっていませんか。どうですか，世間になっ

ていませんか。みんなが言ってるから，っていう気持ちありませんか。MMさんどうですか，世間ってわかりましたか。もう一つ出てきたんですが，非常に優れたＹ子さんがＴデパートの就職にすべったと。企業側は何にも説明してくれなかったと。学校側は企業に何にも言っていかなかったと。どしてですか。なぜですか。どうして言っていかなかったのだろうか。Ｎさんが岡本先生，素晴らしい岡本先生がいらっしゃるのにどして岡本先生が言っていかなかったのだろうかって，授業中何回もそういうふうなことを先生は聞かれたんですが，今日は岡本先生がおいでているので後で岡本先生に先生も聞いてみたいなあと思います。なぜ学校側は企業に言っていかなかったんでしょう。そこどう思いますか。あなたたちの意見聞かせてください。

MA(女)Ｙ子さんが未解放部落だったという理由が落ちた一番の理由と思う。企業に学校が問い合わせしなかったのもＹ子さんが部落出身だったからだと思う。企業に問い合わせしても企業側は絶対に遠回しに言うだろうけど，最後には未解放部落だから落ちましたっていうことを言うと思う。

Ｔ$_{9}$：遠回しに言ってね，そして最後は未解放部落だからって企業側は言ったと思います。

SM(男)Ｙ子は部落の人間だと分かったから，部落のヤツやどうでもいいって思っていたし，その時，同対法っていうんもなかっただろうし，自分達だけ良かったらいいって思っとったので，Ｙ子ぐらい落ちたって損にもならなかったし得にもならなかったし，学校側はそんなことするだけめんどくさいし，だから問い合わせしなかったんだと思います。

Ｔ$_{10}$：学校はめんどくさかったって。理由はわかっとる，未解放部落だから。地区出身の子だったから，学校はめんどくさかったんだろうって。

OK(男)ぼくは企業が何で事情を説明しなかったのかっていうのは，このＹ子をこの企業に入れたら，企業がなんていうか周りのいろんな人から変なふうに言われたりして，企業自体が差別をされたくなかったっていう理由があると思うし，それに企業が事情を説明しなかったっていうことは周りのみんなに知られたくないっていうことと，企業自体が事情を説明しないっていうのが無言の差別につながっていくから，学校もそういうふうなのに触れなかったんだと思います。

YH(女)さっきＳ君が言ってたけど，同対法ができてなかったんも理由の一つかもしれないけど，やっぱり学校の先生や校長先生がＹ子さんの前にも同じような人がたくさんいたと思うから，それでＹ子が不合格になったのも仕方がないことで片づけてしまったのではないだろうかと思います。

Ｔ$_{11}$：ひょっとしたら去年かもしれんないし２年前かもしれません。ひょっとしたら同じようなＹ子さんがいらっしゃったのかもしれません。だから学校側は「ああまたか」と。また企業に言っていくのはめんどくさいっていう感じで何も言っていかなかったんだとＹＯちゃんは言ってくれました。

OY(女)私は企業が説明しなかったっていうのは，同対法が認められていなかったっていうのもあるけど，この差別がある社会を差別と認めないと常識にしてしまっていたから別に企業側は悪いことをしてないわ，という感じでこれが常識となっているから，当たり前のことだ，みたいな感じで済まされたけど，部落地域に住んでいたＹ子はそのことで大きなショックを受けたと思うけど，何で先生達も訴えていかんかったんだろうかと思う。やっぱりそうやって常識っていうことになっていたからこういう結果になったんだと思いました。

Ｔ$_{12}$：差別されるんが当たり前，これが常識になっているんですよ。おかしいでしょ。地区の人が差別されるんが当たり前になっている。おかしいでしょ。地区の人は差別されてもかまわ

ないって。それが常識になっているから企業側も説明しなかったし，校長先生も言っていかなかったと。他にありませんか。

NA(女)企業もYAちゃんと同じで当たり前って思っていたから，言っていかなくてもいいと思っていたと思うし，Ｙ子は落ちて泣いたけど泣いたんがいいと思います。何でかっていったら，泣くっていうことは部落差別が間違えていると思うから，そこでもしもＹ子が「ああ私部落だから仕方ないなあ」って思たんだったらＹ子は獅子にならなかったって思いました。

Ｔ13：ではＮさんその時の涙はどんな涙ですか。落ちた時の涙，その時のＹ子さんの気持ちどんな気持ちでしょうか。

NA(女)たぶん落ちたことが大きなショックとは思うけど，落ちた以上に部落差別を受けたっていうことがおおきなショックだったと思う‥‥。

Ｔ14：ショックの涙だったのですか‥‥。

NA(女)ショックではなかったかもしれないけど，悔しかったと思います。ものすごくね。だから後から先生に言いに行って帰る時はたぶん心の中に差別なくすぞっていう太い柱が立っとったと思います。

Ｔ15：Ｙ子さんが獅子の絵を持って岡本先生の所へ行った時に，美しい涙を流したと書いてある。その時はもう芯ができとると。Ｙ子さんの心の中に一本何か柱ができとると言ってくれました。その時にですね，考えてみましょうか。このプリントの２枚目の最後に「先生私は郷里を出て行きますが，決して捨てるわけではありません」ってあります。「東京で私は先生のように世間の常識にまどわされない強い自分をさがそうと思います。いつかは必ず郷里へ帰って来ます」と言ってＹ子さんは東京へ出て行きました。この時のＹ子さん，どんなＹ子さんですか。就職試験にすべってそしてふさぎこんでいたＹ子さんからこういうＹ子さんになった。獅子の絵を持ってきた時のＹ子さん，そして郷里を出て行くけどもう一回帰って来るって先生に言いきったＹ子さん。どんなＹ子さんですか。そしてあなたたちはこのＹ子さんをどう思いますか。

SK(男)差別に向かって立ち向かおうとする強いＹ子さんになる。

Ｔ16：差別に立ち向かう強いＹ子さんになったって。初めてやなあ，Ｋちゃんが発表してくれたのは。先生うれしいわ，本当に。

YH(女)「私は郷里を出て行きますが決して捨てるわけではありません」っていうところで，自分の故郷の部落を背負ってずっと部落差別と闘って生きていこうと思ったことが強くわかりました。

Ｔ17：自分の郷里を背負って生きていく，ということは自分の郷里に誇りを持つということ。あなたたちどうですか，板野町に誇りを持ってこれからいろいろな高校に行くことできますか。そして高校を出たら，いろんな所にまたは他府県に行って就職したりします，そして結婚もしますよね。その時にあなたたちは板野町を誇りに思って生きていけますか。

KN(女)このＹ子さんが「郷里を出て行きますが」って言ったところで，もしＹ子さんが落とされたところで差別に負けていたとしたら，ずっと自分のふるさとにこもりっぱなしか，出て行ったらもうふるさとを捨てることになっていたと思います。この時のＹ子さんは自分がふるさとを出て行ったら私やが中学校を出て行くのと一緒で一緒に闘ってくれる仲間がほとんどいないと思うんです。そこで一人でも闘える強い自分を作っていきたいからまた戻って来るって決心して言えることができたんだと思います。

OY(女)私はＹ子が世間の常識にまどわされない強い自分をさがしに行ってふるさとを誇りに思えるようにしていく心をつかんだと思います。私だったら絶対ふるさとを離れてみんなから逃げて絶対帰ってこないと思うんです。しかしいつかは必ずふるさとへ帰って来ますって必ずが付いているから絶対ふるさとへ帰って来たと思うけど，私自身だったらたぶん逃げてしまっていたと思いました。

Ｔ$_{18}$：YAちゃんは逃げていたって。みんなどうですか。YAちゃんは逃げていたと言ったけれどみんなに置き換えてみなさいね。Ｙ子さんを自分に置き換えてみるんですよ。ふるさとを背負って生きていく。もしふるさとを否定したらみなさんのお父ちゃんやお母ちゃんや家の人を否定することになるのではありませんか。板野町に生まれたことを恥ずかしいと思うっていうことは産んでくれたお父ちゃんやお母ちゃんを家の人を否定することになりませんか。この時のＹ子さんの気持ち，もう一回考えてみてください。どうですか。この時のＹ子さん強いねえ。強くなれるかなあ，みんなも。強くなれるかなあ，よく考えてみて下さいよ。こんなＹ子さんになれるかなあ。どうですか。こういうＹ子さんになれるかなあ。もう少しあなた達の意見を聞かせてほしい。そのファイルの絵を見てみなさい。これＹ子さんが描いたんですよ。

MO(女)今は中学校でこうやって勉強できているから，Ｙ子さんみたいに帰って来ますって言いきれるかもしれないけど，高校に行って板中の仲間が少なくなって，高校出て就職する時などに先生やお母さんにちゃんといつかは必ずふるさとへ帰ってきますって言いきれるかどうか考えてみたら，帰って来ると思うっていうあいまいな答えになってしまうと思う。

Ｔ$_{19}$：MIちゃんも必ず帰って来るという強い気持ちはまだないって言っていますね。みんなは今板野中学校で同和問題学習をしている，仲間がたくさんいます。ところでＭさんは学習会が非常に好きですって。昨日の道徳の時間も言っていましたよね。学習会って非常にいい所だって，大好きだって。しかし来年高校生になったらその学習会もな，卒業することになるね。

MA(女)私が中学校を卒業して学習会に参加しなくなったら，高校に行ってどんどん周りの人に押し流されていくと思う。

Ｔ$_{20}$：押し流されていきますか，Ｍさん。Ｍさんが押し流されていくんかな。

MA(女)いくかもわかりません。

Ｔ$_{21}$：中学校時代，あと４カ月ぐらいですね。もうこれで同和問題学習が終わったんとちがうのですよね。まだこれから続くのよね。その４カ月間で強いＭさん作っていかなあかんなと思うね。今は大好きな大好きな学習会があって，しかし高校生になったらその学習会に参加できないから，ひょっとしたら流されるかもしれないと言ってくれました。ありがとう。

さっきの続きだけどこのファイルの絵ですがＹ子さんが描いたんです。この絵を持ってふるさとへ絶対帰って来るって岡本先生に言いきったＹ子さんですよね。そのＹ子さん，またＭさんの意見を聞いてですね，その時のＹ子さんを想像してください。そして自分だったら，自分がＹ子さんだったらどんなんだろうか。どうですか。ふるさとへ帰ってこれるかな。

KN(女)もし私がこの時の同じ立場のＹ子さんであったら，この時代は今の私がこうやって発表で

きたりするのも同和問題学習があったおかげやし，もしこの時代にいたとしたら絶対に差別に負けて，ふるさとに帰って来るという意志はなかったと思います。

T22：ではKさんを強くしたのは何でしょうか。今のKさん，先生から見たらものすごく強いなあと思うんですが，Kさんを強くしたのは一体何なんだろうか。

KN(女)今部落差別だけでなしに障害者差別やいろいろあるけど，例えば障害者差別だったら完璧にその人を頭からはねつけたりしとる。私は1，2年の時に交流学習をしましたが，友達で当たり前の存在っていうか，その障害者の子たちが友達であって，その子やを見下すような差別は絶対に許せないと思いました。それは頭から差別者がはねつけるっていうところは部落差別もその部落の名前を口にしたとたんに差別するっていうんも共通してると思うから差別っていうんは絶対に許せんと思います。

T23：差別って絶対に許せんって。この頃障害者差別がよく言われていますね。障害者差別っていうのは，あの子は手がない，足が弱いんだなあ，とか車いすに乗っているとか手がないとかちゃんとしゃべれないとか見ただけで障害者だと，さっとはねつけられる。部落差別も一緒です。板野町だって聞いただけであぁ部落の人間だなあってはねとばされる，一緒です。Kさんはその差別は絶対許せないと，今言ってくれた。21日に板野養護学校の文化祭があってうちのクラスからも5，6名の生徒が板野養護学校へ行きましたよね。その時に障害者差別と部落差別っていうんは本当に関わりがあるんだと言ってましたね。それちょっと話してくれるかなあ。

T24：Nさんは養護学校の文化祭に行ったんかな。どう思いましたか。

NA(女)差別したかもしれません。

T25：養護学校行った人，もっと聞かせてください。U君。あゆみにもU君は書いてくれていました。あれはU君の心の叫びですね。

UK(男)ぼくが文化祭に行った時，1，2年の時交流会に参加しました。まだ今でも嫌だなあと思ったりすることもありますが，そんな気持ちで養護学校に行って，向こうの子が大変優しく声をかけてくれたりしたら、養護学校の子っていい子やなあと思いました。どうして僕達があんないい子を差別していたんだろうと思うと、あほらしくなって、自分が恥ずかしくなりました。

T26：もう一つつけ加えて，U君はこういう意見も持っていましたね。「ぼくは今年も交流学習がしたかった」って。3年生でもしたかったなって先生に言ってくれたし，みんなにも言ったよね。今年は1年生が交流学習してるんですけど，ぼくもしたかったってU君が言ってくれました。もう時間が少なくなったんだけど，この絵をもう一回見ような。この絵なY子さんの気持ちがいっぱい込められていますね。Y子さんのどんな気持ちをこの獅子にあなたたちは見ますか。この絵を見てY子さんのどんな気持ちがわかりますか。二頭並んでいますね，幸せそうですね，この二頭の獅子を見て何か感じたら言ってください。

SM(男)青いほうの獅子は部落差別を常識みたいに考えて，自分の人生を捨てたような感じに見えますが，この小さいほうはY子さんみたいに，どこに行っても自分の故郷の名前が言えて，言えるのが本当に普通に常識になれるようにしたいって思っているから、こういう絵が描けたのだと思います。

MA(女)小さいほうの獅子は何か怒りを持って何かに立ち向かっている獅子で，大きいほうの獅子は差別を常識に考えて一緒に差別しよる人間のような感じで，小獅子が何かに立ち向かっているっていうのはY子さんにしたらそれが部落差別だと思います。

UT(男)この青のほうは両親みたいな感じがします。

T27：ちょっと待ってね，両親？Ｙ子さんのお父ちゃん，お母ちゃんですか？

UT(男)はい。「東京に行ったらがんばれよ」と言うような気持ちが目に何かぼくは見えます。その代わり，Ｙ子さんは差別に負けないような鋭い目をしているから，東京に行ってもがんばれたと思います。

OK(男)：ぼくはこのピンク色の獅子のほうがＹ子で，青いほうの獅子がＹ子に，今まで岡本先生みたいにいろんなことを教えてきたんだと思います。Ｙ子にこれからの心を決めさせたっていうか，そういう心のかたまりっていうかそういうものだと思います。この絵を見たらぼくはこのピンク色のＹ子の獅子がこの青色のほうの獅子に何かいろんなことを教えてもらうっているように思えます。これから差別に向かってっていうか東京に行ってがんばる，そういうふうに感じられます。

YE(女)私はこれはＹ子さんの心の中のものだと思います。大きいほうの青色っぽいほうは東京に行く不安とか，差別されたらどうしようっていうか，立ち向かっていけるかという不安な気持ちで，小さいほうはそんな差別に打ち勝っていこうという強い心だと思います。

OY(女)私は青い獅子のほうはＵ君と同じで両親やＹ子を支えてあげる一人ひとりの人間だと思いました。赤い獅子のほうはＹ子自身で自分を見下した人を見返してやるという強い心とかＹ子以外に就職差別を受けさせてはいけないという強い心が混じっていると思います。私はいつもこれを見て負けたらあかんとかやっぱり努力せなんだら差別者につながるとか思っています。だから，発表することしかできませんが，できたら行動に移せることが第一の差別をなくすことだと思います。

AM(女)私は親獅子は先生だと思います。子獅子はＹ子でこれからふるさとを遠く離れた所に行くけど，絶対差別なんかに負けないぞという気持ちが込められていると思います。

YH(女)さっきのＡさんと一緒でこの大きい青色の獅子は岡本先生でＹ子さんにいろんなことをずっと教えているんだと思います。それとこっちの赤色の獅子のほうは差別に対してすごく怒っていてずっと差別がなくなるまで闘ってやろうって決心しているように思います。

OS(男)大きいほうの獅子はあまりよくわからないけど，小さいほうの獅子は差別に対してすごく怒りを持っている獅子だと思います。

MO(女)小さいほうの獅子はＹ子で大きいほうの獅子はＹ子から見た世間全部だと思う。

OR(女)小さいほうの獅子は差別に負けない強い心を持ったＹ子で大きいほうの獅子はそのＹ子を見守る先生だと思います。

IK(女)私も親獅子は岡本先生だと思います。親獅子の岡本先生にいろんなことを教えてもらってこれからも強くがんばっていくというＹ子の気持ちだと思います。

OT(女)Ｙ子がなんで獅子を描いたんかなあって思ったけど，Ｙ子がたぶん一番強い動物が獅子と思ったんかなあって思って，この小さいほうの獅子は今はまだ小さいけど大きいほうに負けるかっていうか，小さいけど負けてたまるかって言っているように見えます。

NA(女)絵のことと違うんですが，去年の全体学習で今高１のＫ先輩がすごかったでしょ。誰が言ったか忘れましたが，青春しよんなって誰かが言ってＫ先輩が「バカじゃないんですか」って言ったことがありました。その時は私はバカや言ったら青春しよんちがうんて言った子が傷つくのではとか思ったんです。でも今思ったら，本当にＫ先輩の言ってることわかってきて，あの頃の私ってバカだったなあと思いました。

MH(女)この獅子のことなんですが，この二つともこの獅子は座ってなくてしっかりと立ってるから今からこの間違った差別に全力で立ち向かっていくって感じがして，私もしっかり立ってがんばっていけるかなあって思いました。

T_{28}：がんばっていけますよMYさん。もう11月になったらみんなも高校進学のこと考えるでしょう。どこの高校に行こうか，板高にしようかな，徳商にしようかな，阿波高にしようかな，それとも職業訓練校に行こうかな，いろいろ悩むと思います。ある子があゆみに書いてありました。私はただの平凡なＯＬにはなりたくないって。前はそう思っていたけど今は思いませんって。私は数学の先生になるんですって。なぜだっていったらＯＬだったら同和問題学習ができないって。私はこの板野中学校で同和問題学習を受けて私は本当に強くなれたって。だから将来は私も先生になって板野中学校で働きたいって。ある子が書いてきました。私は同和問題学習を生徒と一緒に考えたいから教師になりたいって。ある女の子が書いてきた時に，先生はうれしくて思わず吉成先生に見せてしまいました。本当にこの教育っていうのは学習っていうのはみんなのために，自分自身のためにぼくはしているんだって，私はしているんだって。あと残りの中学生時代，最後，あと残った４カ月間で一生懸命自分を強くしなくてはなりません。このＹ子さんの描いた獅子のようにMYさんが言ってくれましたが，堂々と立っているでしょ。自分の足で立っているでしょ。自分の足で立ってそして進んでいかなくてはなりません。榎村先生がよくおっしゃる100人いて99人が向こうに走って行っても自分は違うんだって思ったら一人でも違う方に走って行くことが大事なのですよ。そのための学習なんです。わかりますね。Ｓ君最後になりました。この１時間３Ｂ一生懸命がんばったと思います。あなたちょっとまとめてくれますか。まとめるやいったらおかしいけどこの授業の感想を委員長として言ってください。

SM(男)３Ｂが全体学習の一番最後になって，一番最後や目立つし，なんかそんなに目立ちたくないし，今日全体学習するんいやだなあって思っとった子もおるだろうし，ぼくだって思っていました。しかし，なんだかクラスで授業している時よりここで授業してる時のほうが意見も出るし，本当の事がわかるみたいでこっちの方がいいと思った。全体学習が最後になって今度ぼくや，高校行ったり，就職したりいろいろばらばらになってどうなるかわからないけど，今日やったこととか３年間やってきたこととかが無駄にならんようにこれからも今までみたいに同じようにやっていきたいと思いました。

T_{29}：ありがとう。先生な授業始める前にあんまり緊張してなかったけど，今日は全然緊張してなかった。前は，過去のこと考えたら授業するんが苦しくて苦しくてここへ立つのが苦しかった。もう心が重かった。同和問題学習するたびに重かったんです。でもこの間からみんなの意見ずっと聞いていて，あなたたちが今日どんな意見を言うかなって本当に楽しみにしていました。この１時間，下へ向いた子いなかったと思います。泣いた子もいませんでした。泣けへんって約束したもん。絶対泣かないでがんばるってあの時約束したものね。よくがんばりました。まだ言い足りない人は６時間目全体学習であなたたちの意見を聞かせてください。では終わります。

【授業記録】第６回全体学習　　資料：『Ｙ子は獅子になった』

1993年11月25日（木）６校時

３年全体　授業者　吉成　正士

Ｔ（森口）今日のＢ組が最後で一つの区切りを迎えるわけですけど，今Ｂ組の人がんばってくれた思い，それをね，自分にとって部落差別をなくすってことはどういう意味があるんだろうか，そのことをじっくりと考えていきたいと思います。後ろに板野高校の先生もおいでてくれてます。またみんなが，何人かが板野高校に行ってがんばっていく，それにこたえて先生方も何かまた語ってくれる，と思います。岡本先生のあの資料「Ｙ子は獅子になった」という資料ですけど，ぼくは全ての教師がこうありたい，こう生きたい，そういう願いを持ってこの資料を読みました。実は先生の幼なじみで非常に苦労した友人がおります。同級生が，鴨島商業で岡本先生に教えてもらいました。岡本先生を知りました。小学校，中学校と非常に苦労した彼でした。その彼が鴨商から徳島市内の会社を受ける時に，住んでる所を根掘り葉掘り聞かれ，非常にいやらしくねちっこく聞かれ，彼は瞬間「ああ，部落であるか部落でないかを探ってるんだなあ」と思いました。でも必死に耐えていろいろ話をしました。めったに涙を流さないやつでしたけど家に帰ったとたんに，家に帰って母親の顔を見たとたんに，こみ上げてきて涙があふれました。差別問題としてきちっと取り上げられました。その会社は非常に反省したんですが，彼は「こんな会社は行かん」と言って就職はしませんでした。今日の資料は30年前のいわゆる同和対策事業特別措置法っていう法律がない，そういう取り組みが全くなされてない厳しい中でのことです。その中で苦しんだ，Ｙ子さんを初めとする我々の先輩ががんばりがんばりして，差別っていうものはだんだんなくなってきたわけですね。その中でその思いや生きざまや願いを受けて我々がどうあるかどう生きるかなんです。実はみんなの先輩たちの昨年の授業記録の表紙にもこの絵を使わせてもらいました。これは先生から見せてもらったと思いますけど，我々はその思いを受けてどうあるかどう生きるか。差別をなくす一人としてどう進んでいくか。どういう生き方を求めていくか。そういうものをしっかりと求め合う全体での授業になればと思います。この後１時間，吉成先生に進めていただきます。いろいろとほんとに思いを語り合いたいと思います。

（起立・礼）

Ｔ$_1$：　　『ふるさと』

“ふるさとをかくす”ことを／父は／けもののような鋭さで覚えた

ふるさとをあばかれ／縊死した友がいた

ふるさとを告白し／許婚に去られた友がいた

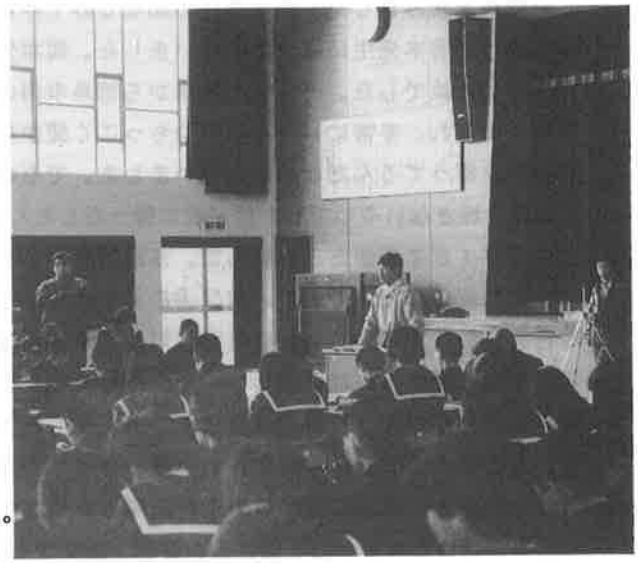
吾子よ／お前には／胸張ってふるさとを名のらせたい

瞳をあげ／何のためらいもなく／“これが私のふるさとです”と名のらせたい

丸岡さんの「ふるさと」の詩です。今になってこの詩の意味がよくわかります。ほんとによくわかる。そんな気がします。Ｂ組の授業大変素晴らしかった。熱いものがこみ上げてきた１時間であったと確信してます。今までＡ，Ｃ，Ｄ，Ｅ，Ｆとやってきて最後のＢ組の全体学習です。それに向けて今のＢ組の，Ｂ組からもらった炎をみんなでより大きなものにしていきたいなって思います。

初めに言っておきます。これはあくまでも皆さん一人ひとりのための時間であって，これは見せるためのものではありません。先生はそう考えてます。校長先生には非常に申し訳な

いんですが，時間切らずにね，やりたいと思ってます。みなさんの時間にしたいと思います。さっきの５時間目にいろんな話題が出てきました。この資料を通しての話題も当然ですけども，障害者差別に至るまでいろんな話題が出てくる中で，Ｂ組の授業の感想もいいだろうし，昨年度の事もね，言ってくれた子もおりました。そんなのも含めて今持っている自分の思いを，今持っている本当に思ってきたこの１年間，１年間と言っても９カ月ですか。もっと大きく言えば中学校２年間プラス９カ月の思いになるかもわかりません。人によったら今まで14年間か５年間ですか，生きてきたその生きざまを語ってくれる人もおるかもわからんです。一つの集大成として残りの時間を存分に使いたいと思います。堂々と胸張って生きていきましょう。何からでもいいです。どうぞ。手を挙げてしっかりと手を挙げて発表していってください。どうですか。



MI（女）さっきの授業でも言っていた身体障害者差別のことですが，私も２年間板養との交流会してきて，今年の文化祭はちょっと用事があって行けなかったのです。私は川端の一番端で鳴門と境目の所です。そしたら鳴門にはそういう施設みたいなんが二つあるんです。「幸せの里」だったかな，それと「草の実」っていうんがあります。「草の実」っていうんは，毎年５月頃に行事があって参加してくれている子居ると思います。「幸せの里」っていうのはもう私よりかずっと上で大人の人なんやけどやっぱり身体障害者の人で前もずっと今もやけど，うちの前とか散歩道になっとんよ。以前は通っているのを見てものすごくいやだったんよ。「ああ」とか叫んでいて，なんかずっとうちの中見られたりして。しかしなんかこの頃違うんよ。「がんばって歩いているんだなあ」とか思ってしまうんよ。だから何ていうかな，障害者差別っていうんはいつ自分にふりかかるかわからんことでえ。それをいつ自分にふりかかるかわからんことで，自分に障害がなかったら文句言うたりしよんのに，いざ自分にふりかかったらどうなるかってこと考えたらものすごくこの頃恐ろしい。

T₂：障害者差別について触れてくれました。この件についてはほんまにいろんな子がたくさんの思いを持っとんでないかと思います。

YE（女）さっきのＭさんの意見で「思ってしまう」って言葉はちょっとだめだと思います。思ってきたっていうんだったらだんだん差別の，障害者を差別しなくなってきているというのがわかるけど，「思ってしまう」っていうたら差別の中でいい方に進んで行っているっていうことに対して反感を持っているという言い方になると思います。私は障害者差別っていうのに何かすごく敏感になってしまいます。やっぱり１年の時に交流会していたのでよくそれがクラスとかで話題になっていたので敏感になってしまいます。

T₃：ある時ね，こういうことを言われたことがあります。確率の問題ですけど，確率でね，女の子20人いたら20人のうち一人は将来子どもができた時に何らかの障害を持った子どもが生

まれてくる可能性がある。そういうのを聞きました。それを聞いた時にね，周りを見るわけですよね。周り20人ぐらいを見るわけですよ「ああこれぐらいが20人か」って。この中で一人生まれてくるんやなって。自分かもしれんのやな。当時本当にどうしようって思った。どうしよう。今でもそれはやっぱり拭いきれてない部分ってあると思う。でもこの学習をしていくことで以前よりは減ったかな，いやきっと減ってるなっていうそんな気がします。確か２年前の交流学習でしたかね。何度か言ったこともあると思います。最後の交流学習の時今でも忘れられない，最後の交流学習の時に授業形式の交流会を持ちました。そしたら養護学校の子の一人がね、こういうことを手を挙げて発表してくれた。未だに忘れられない，たぶん一生忘れ得ることのできん発表です。自分は小学校から養護学校に来よる。小学校に入る時に家の人がランドセルを買ってくれた。すごくうれしかった。自分はこのランドセルをしょって，地元の小学校に通えるとずっと思っていた。たまらなく夢に思うかのごとく楽しみであった。けども自分は地元の小学校には行けなかった。養護学校に行くことになった。それを結局使うことができないんですよね，そのランドセルはね。ところが今度は自分の弟がね、小学校に入学した時に使われてなかったそのランドセルを使って通学することになった。ぼくは悔しかった。悔しかったんです。自分が背負って行けると思ってたランドセルを弟がしょって行きよる。ぼくはほんまのこと言うたら悔しかったんじゃ。そういうことを初めて，おそらく初めてだったと思います。発表した意見がありました。そんなことをわからない人間，情けないなあっていう部分があります。すごく・・・・・・。考えてみたらそうなんですがもすごく単純なことなんやけども，それがわかってなかった自分ていうのがすごく惨めになったというかね、本当にもう情けなかったって今でも覚えてます。ほんとに一生忘れることができん発表であったと思います。最底辺に置かれています，今でもね。置かれているものがどうしてそういうつらい目をしていかねばならんのか。そのことを一体どう思っとんだろうか。自分はどう思っとんだろうか。みんなはどう思っとんだろうか。そう思います。部落差別に関わって障害者差別に関わってどうですか。

BY（女）私のいとこは自閉症で，障害児なんやけど，まだ４才か３才なんやけど，それでも自閉症でまだ話ができません。しかし，私のいとこだからものすごく好きです。それで私はそれまで障害児っていうのはピンとこなかったんですが，それで身近に障害児っていう子ができてまだほの子が差別されようってことは知らないけど，それでも今実際に障害者差別があるからすごい不安です。しかし，私にとってはかけがえのないいとこやからずっと大事にしていきたいし，そんな許せん差別やけん，私は絶対にこの中学校を卒業しても自分で正しいこととか許せんこととかはずっとちゃんと判断して自分でしっかり生きていこうと思います。

OY（女）この前養護学校の文化祭に行ってきました。体育館では生徒が，生徒や先生が舞台でカラオケ歌っていてそれで思ったんはあの学校内ではきっと差別とかないよう，一緒に一生懸命生きようっていうんがあって差別とかないんちゃうんかなあって思いました。学校から出たらきっと差別されていると思います。私の近くの家のおばさんも足が不自由で普通に歩けません。その人も人やしちゃんとした人間なんやし心あるし，普通に不自由なく生きよう人と比べたら心は強いし澄んでいるように思います。で，そういう人に偏見で勝手に差別するんは本当にいかんと思います。やっぱり交流とか触れ合ってみなわからないし，わからないから変な目で見てしまうんだと思います。私の理想は普通の中学校も小学校も養護学校も，あるけど一緒に勉強できるような，一緒に学校がくっ付いているようなそんな学校になって

いったらなあと思います。

FM（女）私の隣の家に何才か今の高３ぐらいに当たる男の子がいて，今はいるかどうかわからないけど，いた時はなんか私はすぐ隣の家だから，この家たくさん犬を飼っていて私は帰る時犬に触って帰ったりして，それでその男の子は心に障害を持っているっていうそういう感じで，学校もたぶん高校は行ってないと思います。それで家でいてもたぶん何もすることないから，自分もどうしていいかわからないのだと思うのですが，その子は犬に当たります。犬を追っかけ回して棒で叩いたりして，私隣にいてものすごく耐えられなくって，また犬いじめているなって思ったらものすごく犬もかわいそうだったけど，その男の子自体ものすごくかわいそうだなって思っていました。私２年生の時に交流学習して，はっとその男の子のこと思い出したらその子もやっぱり普通に中学校行って，高校行っていっぱい友達に囲まれて普通の生活したかったんだと思います。けどその子はそんな生活できんと，自分のことを全部言えるような友達もいなくて，犬に当たって自分もどうしようもなくつらかったんだと思います。それでもう何年も前になるけど，私や団地の子と広場で遊んでいてその子が入って来たら一つ上の男の子が「なんなお前」って言うて，「出て行け」って言われてそれでその男の子は言い返したみたいやけど，仲間に入れてもらえんかって私横でいたけど何も言えなくて，どうしようって思っていたけど力になってあげることもできなくて，そのままとぼとぼ走って帰って行くその男の子の後ろ姿を見ていました。今も思い出してもし今まだ家にいるようやったら何か私にできることがあったら，何かしてあげたいなと思いました。

NA（女）私が小学校の時にうちの塾に障害者どんな障害を持っとるか知らないけど障害者の子が来て，その子私が５年生ぐらいだった時に中２ぐらいだったと思います。でもまだたし算ができなくて，そして私いつもお母さんと一緒にプリントとかしていたんですがお母さんがその子に一生懸命教えているのを見て，何かたぶんものすごい私その子バカにしていたと思います。でもお母さんやっぱり他の生徒とか来たら私みたいに思う子いるでしょう。「いやそんなんもできんの」って言う子いたんです。だからお母さんはいつも生徒がいない時にその子呼んだりして，最後はかけ算ぐらいまでできるようになって，でもそのころまだ私自身が強くなかったから，差別に立ち向かおうとしてなかったから，ずっとバカにしとるままでした。今すごく後悔しています。でもその子時々投げ出すこともあったけど私やよりずっとがんばっていました。そんなの見て私が勝手に批判したりするのはすごいおかしいなって思うようになって，その子は絶対負けへんと思うけど，うちのお母さんがしたことはやっぱりいろいろ言われるのから逃げさせるっていうことをしたと思う。やっぱり言う子がいるから，いない時に来てさすっていうんはその子をいろいろ言うことから逃げようとさし

ていると思います。だからその時お母さんえらいなあって思ったけど，今思ったらただその障害者の子を逃げさせようとしているだけだったんだと思いました。

T 4：今言ってくれたことなあ，この資料のな「Ｙ子は獅子になった」のな，なあＮ，同じように考えれるんでないかなって思う。そういうのを許さないってものができあがっとんでないんかなって思う。もう少し深く考えてみて。

HI（女）私のいとこにも障害みたいな感じの子が居って，その子とはいとこのくせに全然１回も話したことがなくて，何回も遊びに行くのに１回も話したことがないんやおかしいなと今思った。それでその子つばとかたらして汚いなあと思っていました。今思ったらごっつい恥ずかしいこと思っていたんだなあと思いました。それでこれからは何も飾らないありのままの自分と接していきたいと思います。

T 5：過去の自分を洗って初めてな前に一歩踏み出せるんやと思う。過去の自分を洗って初めて一歩踏み出せるんやないんかと思います。

YE（女）私の弟障害者です。小さい時，近所の子と一緒になっていじめよった。石投げたり土投げたり。寄せ付けんようにしていました。つい最近なんか身分証明書みたいなのを見せてもらって，なんか番号付いているからおかしいなあと思っていました。どうして番号付いとんやろなあと思って。弟は何とも思ってないっていうか，差別っていうか私やがしてもわからないっていうか，どんなことされてもわからないし私がどれだけいじめてもいやとも何とも言いません。弟の友達で障害者の子がいます。その子の弟が「あいつの弟じゃ」っていうていじめられているのを聞いてものすごく腹立った。弟のことで私や言われたことないけど，お母さんたちに弟のこと言ったら「絶対お前差別されるから言うなよ」って「全体学習で言うていいで」って聞いたけど「言うたらいかん」て怒られた。「お前が差別されるんぞ」って。だから言うのがいやだった。しかし今日の全体学習の前に３Ｂで話し合った。その時にみんないろいろ言ってくれました。だからみんなにだったら言っても大丈夫だなあって思って言いました。弟は人間です。私の弟です。私の人間としての弟です。

MA（女）私今日３時間目にＥさんからこの話聞いた時，何もＥさんに応えてあげることができなかったんですが，Ｅさん今言えてすごい強いなって。でも私Ｅさんと去年２年間同じクラスですが，Ｅさんもすごい弱い部分を持っていると思っています。それうち明けてくれたから，その弱い部分私やが支えてあげなんだらＥさん苦しくてつぶれてしまうと思います。私はこのこと聞いて良かったと思うし，行く高校も違うかもしれないけど高校離れてもＥさんのこと支えてあげたいと思います。

HM（女）この前夏休みの最後のほうに知り合いと市内に遊びに行っていて，座ろうと思って周り見渡したら二人で一緒に座れる所がなくて，そのお店で１年生の時に交流学習していた養護学校のＯ君に会いました。Ｏ君が私が席を探しているのを気付いてくれて，自分から席を空けてくれて「どうぞ」って言うてくれたから座ったんですが，その時は私正直言ってＯ君のこと覚えてなくてＯ君は私のこと覚えていてくれたみたいですごいうれしかったです。一生懸命思い出していて，思い出したからお礼を言いに行こうと思って行ったら「みんな元気ですか」って聞いてくれたからすごくうれしかった。だから忘れていた自分が恥ずかしかった。

HI（女）Ｍさんが言ってくれたけど，草の実学園の人が散歩するのに私の家の周りを通る時にいつも，昔自分は差別してないんだよっていうような感じで気の毒やなっていつも言ってました。今思ったらそれが差別で気の毒やなって思うことがやっぱり障害者差別だと思います。

そういう言葉が出てくるのは「世間」っていう言葉がＹ子の資料に出てきたけど，世間に差別されるから気の毒やなって自分が言っていたと思います。みんな障害者差別のことについていろいろ言ってくれてるし，私たちはそんな間違っている障害者差別とか部落差別とかをなくすために，立ち向かっていくためにこんな学習をしてると私は思います。だから嘆くだけでなくて何て言ったらわからないけど，嘆くだけでなくてＹ子さんのように立ち向かっていけるような強さを，強さとか絆をつけていかなければいけないというか，絆を作っていくいくのだと私は思います。

YH（女）さっきＹさんが３時間目もこの時間も言ってたけど，３時間目言った時に私は側で見ているしかできなかったんです。それはやっぱり自分の心の中に差別があったからだと思います。それに私は養護学校に１年生の最後のほうの全体学習の時に１回１Ｆと一緒に行ってそれからちょくちょく自分で結構友達とかと遊びに行ったりしてて，その人たちを見ても最初のうちも何とも思わなかったしあそこの養護学校というのは外に出たら障害者差別が厳しいかもしれないけど，その他の部落差別とかいじめとかが全然なくてあんな学校いいなあと思っていましたが，それはそういうふうにその障害者差別もなくしてあとうちやの部落差別もなくして，そうやって何にも差別のない学校があるってこと自体が普通なのに，それをそう思えなかった私はバカだと思います。

HA（女）私もＭちゃんやＹちゃんと同じように３時間目の時間Ｅちゃんにこたえてあげることができなかったけど，Ｅちゃんは強いから・・・（涙）・・・［がんばれ］・・・障害者差別に負けないように・・・（涙）・・・

OY（女）３時間目の時と今Ｙさんが弟に障害があるっていうことを聞いて，Ｙさんの弟は私たちと同じ血が流れているんだし，同じ人間やからすごい今でもたぶん言うのはつらかったと思うけど，私たち一人ひとりのこと信じてくれてすごいうれしかったから，Ｙさんは強いと思うけど弱いところもあるから，そこを私や一人ひとりががんばって支えていかなんだらいかんと思うから，ここでＹさん泣いているけどＹさんのこともものすごく大切に思っていると思うんです。だから私たちのこと信頼して言ってくれたＹさんのことがものすごく好きやし，みんな友達って言よるけど，みんな友達もＹさんのことすごく大切に考えていると思うんです。だから自分の弟をＹさんには弟は一人かな，一人しかいないから自分の弟は誇りを持って自分の弟だと名乗っていけるような世界にしていくべきだと思いました。

KS（男）今身体障害者差別のことで昔のことを思い出したんやけど，小学校の道徳の時間に習った資料で身体障害者の人が歩いている時にある人は「あの人あんな体で歩くのはすごいなあ」って言ったことについてその人のお母さんが怒ったんだけど，その時ぼくはなんで怒ったんか意味がわからなかったんやけど，今考えてみたらすごいってことでその人を別の人間に見てしまうような言い方をしていることに気付いて，その時そのお母さんが怒った意味がやっとわかりました。

NY（男）今身体障害者の話が出ていてみんな話していて悲しいと思うんです。Ｙさんとかいろいろ語ってくれた人。けど今泣いたらいかんと思います，ぼくは。今悲しいからって泣いても今はその悲しいのを乗り越えるために勉強していると思うんです。それ我慢せないかんと思います。だから，それ乗り越えたら絶対いいことがあると思うんです。今は泣かないでがんばってほしいです。

KN（女）さっきの吉成先生のランドセルが弟にいってしまった子は１年の終わりの時にその話し

てくれて最後の交流学習の時に電話番号を聞いてきて，一回電話くれたんですがその時はいなかった。そのちょっとの交流でもその子や仲間の絆大切にしてくれてＯ君たちも徳島で会った時に少し話もしたし，あとＫ君ていう口が不自由な子が同じ班にいたんですがその子も一回手紙をワープロで打って送ってくれて，その子やみんな仲間の絆を本当にすごい大切にしてくれて一回会っただけでも声かけてくれるし，話してくれる。けど私が私と同じ班だった子とかがその板中で一緒に交流してた子に手紙出した時とか，その手紙もらったことをめんどくさがっていたりしたし，交流学習が終わったらすぐにその子やとの仲を突き放してしまうっていうか忘れようとしているような子がいて，私はどっちかって言うたらその子やとは仲よくしていきたいし，だからそういう交流を絶とうとしてた板中の子たちのほうがずっと人間として弱いと思いました。

OK（男）ぼくも１年の時吉成先生とかと一緒に養護学校の子と交流したけど，21日に文化祭に行って一つすごいうれしいっていうか，板中のぼくやもまだ仲間に思っとってくれたっていうかそういう感じがしたことがあったんよ。それが１年の終わりに板中の１Ｆの子と養護学校の子で思い出のボード作ったのを覚えていると思うけど１Ｆの子は，そのボードをまだ養護学校に飾ってあってきれいに置いとったからすごいうれしかった。けど板中にはもうないっていうか，しまってあるので，すごい板中がＫさんも言っていたけど弱い立場っていうかもうせっかくの思い出を隠してしまうっていうか，そういうふうに感じて向こうの子はこれだけ大事にしていてくれたのに，ぼくたちは物置に置いてしまったっていう感じがして，すごい情けないっていうかつらい気持ちっていうかそういう気持ちになりました。

T（豊田）すいませんみんなの間に入って。Ｙさんを去年から担任しているのですが担任していた最初のうちはずっと私に隠してました。弟さんの事，お母さんもずっと隠してました。ある時点からＹさんが言いだして今年も手紙受け取って弟さんのことの相談をいっぱい受けました。今日まさか言うと思わなくて，先生は３時間目Ｙさんが言うてその後話しかけたけど「全体学習で言うの」って聞いたら「わからん」って言っていました。でも彼女が言ったことは本当に一歩Ｙさん強くなったと先生は思います。本当に弟を守っていかないかんていう気持ち，ひしひしと伝わってきた。Ｈさん泣いたらだめですよ。がんばらねば。それとさっきもみんなの意見聞いていたけど先生いま校長先生とちらっと話していて，新しい校舎になりましたよね。美しくなった校舎，みなさんのトイレ，気が付きましたか。トイレ変わった所あるでしょ。一ヶ所。洋式が増えてませんか。私も校長先生から言われるまで気が付きませんでした。なんてバカだったんだろうかって，あれはなんのためにできたんだろうかな。洋式のトイレ。気が付いてましたか。交流学習で養護学校の子が来るよな。その時トイレ困るでしょう。あの洋式のトイレそのために作られたんです。そうだろ。先生気が付きませんでした。本当に校長先生に言われるまで気が付きませんでした。みんな気が付いていたかな。あのトイレ。Ｅ組の人が一生懸命掃除してくれているあのトイレ。もう一回考えてみましょう。

BY（女）さっきＮ君が，私さっき泣いたんですが悲しいて泣いたのではないのです。しゃべっていたら勝手に涙が出てきて，自分でも何泣いているんだろって思ったんですが，だから悲しくて泣いたんちがうから，そこのところはわかってください。さっき語ることの難しさっていうのを知りました。

NA（女）うちの親，すごいい差別者です。なんでかっていうたら前お父さんとお母さんと私で文

化の森の図書館に本借りに行った時に受付で左利きの人がいたんです。そしたら本借りて帰る時にお母さんが「あの人左利きやなあ」とか言うんです。それで私はそれがどしたんかって考えていたら，お父さんもお母さんも「今時そんな人いるんやなあ」とか言うんです。別に左利きの人いたっていいでしょう。それなのに言うんです。すごい腹立ったんですが，言い返すことできませんでした。それでテレビとかでも左利きの人が出てきたりしたら，お父さんが「この人“左利き”じゃ」とか言うんです。最初その意味がわかりませんでした。そうしたら左利きの人のことそんなに言うんです。そういうふうに勝手に名前付けんでもいいでしょう。それなのに名前付けるんですよ。お父さんや何もその人のこと知らないのに，なんで勝手に言うんなって思ったんですが，何も反抗できんでものすごい悔しかったです。

TJ（男）ぼくは柔道部でけがをして２年生の時松葉杖使って足が痛くて歩いていたんやけど，本当にけがしてない正常な人が歩いていたらすごい自分がつらくて左足をけがしたけど，右足の方も痛くてそういうのを今思い出したら，障害者の人たち車椅子に乗って動かしている人も両手がすごい苦しい思いをしてきたと思います。今そんなこと思い出してみたら少しでも考えれる人間になっていきたいと思いました。

KM（女）私は身体障害者差別に対して自分の身近には障害者っていうんはいないから自分には関係ないっていう思いを持っていました。ずっと６時間目始まってから身体障害者のこといっぱい言ってくれる子がいてもう一回今までのことを振り返ってみたら，やっぱりいました。３年前にお父さんの弟が結婚して夏休みにお父さんの弟が結婚するお嫁さんが名古屋に住んでいるから徳島に遊びに来たというか徳島で結婚式を挙げることになっているから来た時に，一緒にご飯を食べていたらそのお嫁さんのお父さんの右手が親指と小指しかなかって，なんか私は変な目でそのおじさんを見てしまいました。今考えてみたらすごいバカなこと聞いたなって思うんです。親とかに「あの人指二本しかないなあ」とかすごい差別的な発言をしたことを今でも覚えています。一生懸命親指と小指しかなくってもお箸もちゃんと使えるし，一生懸命生きているのになぜか自分と同じ人間って思えなくって五本指あるのが当然なんだってずっと自分で思っていて，二本しかない人や人間でないとか同じ人間でないってずっと思っていて，けどその人すごいいい人で私もその人も同じ血が流れているし，やっぱりいくらあの人は指が二本しかないけど同じ人間やなって思いました。この間私は名古屋に行っていてその人に会うことはできなかったけど，親が「お父さん元気にしていますか」ってお母さんに聞いたら「一生懸命仕事がんばっています」って言っていたのを聞いて一生懸命がんばって生きているんやなっていうことを思いました。私はずっと部落問題学習ばっかり考えていて障害者差別とかそういう問題のことは自分には関わりがないから関係ないってずっと思っていたけど，やっぱりもっともっと自分の視野を広げて一番自分に関わるんはやっぱり部落差別やけど，自分の身近にもそういう障害者の人がいるし，もっと真剣に障害者差別のことも考えていかなければいけないなって思いました。

OT（女）私のお姉ちゃんは高校の時から「幸せの里」っていうんかな，そのお祭りの時に手伝いとかに行っています。なんかのサークルに入っていて。今も手話とか習いに行っているんやけど，それは頼まれたりもするけど用事があったりしたら断るけど，障害者の人がいやだからとか言って断っているとかそういうこと言っているのは聞いたことがない。それでいつも普通に行っていて「どうだったん」って聞いたら「おもしろかったよ」っていうようなこと言って，私はたぶんそういうふうにはできんって思ってるところがある。だからすごくうら

やましい。お姉ちゃんに、いつもいろいろ教えられます。

KJ（女）私も何年か前におじいちゃんとかおばあちゃんとかと一緒に草の実学園に行ったことがあったんだけど，その時に障害者の人が横を通ったとしたらなんか避けていたような気がします。だからその時障害者差別があかんっていうことをわかっているようなふりしかしてなかったと思います。

OK（男）二つ言いたいことあるけど，一つはＹさんにちょっと謝っときたいんやけど，中１の時Ｙさんがぼくに「私の弟障害児なんよ」って言ってくれたんよ。その時ぼくは覚えているかもしれんけど「ふうん」って言うてそのままどっか行ってしまったんよ。Ｙさんが今日言うてくれてなんであの時ふうんって言うただけでどっか行ってしまったんだろうなって思ってしまった。それともう一つは贅沢でわがままな批判なんやけど，校長先生と豊田先生が言ってた，校長先生には悪いけど障害者のためのトイレがあるって言ったけど，考えてみたらこの学校建て直したってトイレしかないっていうような感じがします。段差はいっぱいあるし，階段は高いし，障害者の人が一人車椅子で来ても一階のトイレ使うんならいいけど，トイレはなかなか行きにくいし廊下も行きにくいし道は狭くなってるし，それにどこでもこういうことがあるもんで，以前に板高の演劇見るのに福祉センターに行ったんです。板中で一人で劇した名前忘れたけど女の子が来ていて養護学校の先生と，２階だったからエレベーターがあったんやけどエレベーターが使用できんかったけん階段で昇っていくことになって，そこの職員の人も手伝ってたんやけど，見ていたら階段がすごい狭くて車椅子がやっと入れて人がやっと持ち上げれる広さだったんよ。階段の滑り止めのところが壊れていて持っていた男の人が「これのどこが福祉センターな，壊れているでないか」って怒っていたんよ。ぼくも「そうやなあ，なんでこんなに壊れているんだろ。汚いし」って思ったけど，板中もトイレがある，何も知らんけど今のとこ障害者のためっていうのだったらトイレぐらいしかないと思うし，それだったら形だけの言い逃れっていうような気がする。

UH（男）ぼくは今まで自分は差別してないと思っとったけど，本当は差別しとったことに今日気が付きました。ぼくは今まで同和問題学習とか身体障害者などの，なんて言うか，忘れたけど，ぼくは差別しとらんと自分で思っとるだけで本当は差別ずっとしていたと今日気が付いて，今までのことが恥ずかしくなりました。

AS（男）さっきＳ君の言った話聞いて思い出したんやけど，前行っていた塾で片足だけ変なもので巻いていてすごく歩きにくそうで，それでいつも家から塾まで来ていた人がいてその時のぼくはその人見て「変だなあ」とも思っていたし，ぼくらからすれば家から塾まで行くのはすぐやけど，その人にとっては歩きにくいのに歩いて来ているのがすごいなあとか思っていました。Ｓ君の話聞いてその時のぼくも「すごいなあ」とか言った人と一緒のこと思っていたんだなあと思って情けなくなりました。だけどそのこと思い出して良かったと思うんよ。思い出したところでまだきちんと同和問題とかの勉強も自分自身できてないと思うから，また同じようなことを思ってしまうかもしれないから，中学校卒業して高校行ってもきちんと同和問題の勉強をしていきたいと思う。

IR（女）私は中１の時養護学校と交流会をしていました。さっきの吉成先生のランドセルの発表があったっていうのを聞いて，もし私だったら弟に取られるのが悔しいから，弟とけんかとかすると思います。だけどその子はけんかしないで心の中にずっとためていたのはすごいつ

らかったし悔しかったと思います。そんなすごい悔しいとかずっと言えんかった気持ちをその時に言ってくれたのに私は吉成先生にそんな話言われても全然思い出せませんでした。1年の時は養護学校と交流会をして障害者の人を気持ち悪いとかそういうふうに思わないようになるのが差別がなくなった証拠とか思っていて，今そんなこと全然覚えてなかったからやっぱり交流会していても障害者差別のこととか全然わかってなかったんやなあと思いました。

T 6：そういったことをね，過去の自分を振り返ってやっぱり洗った結果どういうことが出てきたかっていうことが大切なんやないかって思う。ようY言うたと思う，本当にな。1年生の時に言えないかなあって思いながら1年間過ごしてやっぱり重たいものとしてあるから言えないかなあって思っていた。けども今日言えたってことは新たなスタートと思う。それはそのスタートっていうのはあなた一人だけのスタートでなくて，これは正にここにいる者全てのスタートであって部落差別しかり障害者差別しかり，確かに意識に障害者差別についての意識が芽生えた子っていうのはいるわけやここにね。あの「ゴンタこそがたたかいを」の中で泣きながら言ったあの正にゴンタやったよ，今のは。そういったことで揺さぶられていく。最底辺に置かれとる者が何も言えない，何も言えない世の中になっておる，お母さんの気持ちもわかる。何も言わせてくれないこの世の中にされておるこの「世間」っていう形のない物体，化け物。これにあらがうってことが我々の努めでないんかなって思う。どうですか。

T（阿部）貴重な時間を裂いて申し訳ございません，割り込んでしまって。私の娘はね，1500グラムで産まれてきたんです。産まれる時にお医者さんに怒られた。いろいろあってのことなんですが。「あなたねえ、障害を持って産まれる可能性がありますよ」と，「50％50％ぐらいの確率ですよ」とそういう話があって，それで私は嫁さんと話して「困ったなあ」とそこで思ったんです。「困ったなあ。障害者に産まれたらどうしよう。」と。いわゆる「世間」の一人になっていたわけです。そういうふうに思ってしまいました。けれども我が娘を見て自分の子どもを見て育っていく子どもを見てね，この子自身は自分をかわいそうだとか気の毒だとか思って産まれてきてないなということを感じたわけです。そのことを発見したんですね。かわいそう，気の毒だと思っているのは誰だろうか，先生自身がそう思っているからこの子がかわいそうな人間になっていってしまうんだなあと，そのことを発見しました。つまり本人自身は何も変わってないんです。変わっていっているのはそういうふうに見なしている自分だったんです。自分自身なんです。そのことがこの同和問題を考えていくね，一つの私のきっかけになっています。本当の幸せとは何かを同和問題を通して学んでいるんです。だからこの差別がなくなって，部落差別やまた障害者差別がなくなって誰が幸せになっていくんだろうかということをいつも考えるようになっています。例えば私の中学校の時の同級生が恋愛をして部落の女の人と恋愛をした。大学でね。それで結婚するということで地元へ帰ってお父さんお母さんに報告をしたそうなんです。するとね，そのお母さん，特にお母さんの方がね，ものすごく反対しました。「世間に顔向けができない」っていうふうなことを言って猛反対をしたんです。本当にね，二人の，子どもの幸せを願うんだったら，なんで一緒に差別と闘おうとしないんだろうと。「世間に顔向けできない」と言うたことが自分の子どもや自分自身までも苦しめているんです。ですから本当に先生が思うに部落差別，障害者差別なくなって幸せになっていくんは自分自身だというふうに思えるんです。そういうことをいつも思うんです。

Ｔ ｯ：ありがとうございました。障害者差別に関わっていろいろ発表がありましたけども，最終的にねやっぱり板野に住んで居る限り板野で住んでなかってもそうなんですけども，戻ってくるのは部落差別を考えねばならんと思います。

Ｔ（森口）差別が恐いからね障害を持った子が産まれるということ，これもやっぱり大変ですよ。非常にいろんなシステムがそうなってないから大変ですよ。それ以上にね世間が恐いんやろ。なあＹ。差別が恐いんやろ。その差別よな。そのことを障害を持った子がうちにいて大変なんや。みんなで助け合う社会にしてほしい。この子は大変なんや。そのことがみんなで力合わせてこの子が幸せになっていける社会にしてくれってことが胸張って言えんでしょ。なんで隠さないかんの。そのことを明かしたらその子だけでなくてそれに関わる人たちが全て差別されていく，そういう差別が恐いんでしょ。そういう差別をなくすためにみんながんばってきたんやろ。がんばっていくんやろ。部落問題の学習をしてきたってことはそういうことやと思う。みんなね後ろに高校生がいるけど，半年たったら高校生や。社会に出るんや。一人になっても部落に生まれたことを胸張って生きれるか。部落差別なくすためにがんばっていけるか。自分にとってこの学習は何なんだろうか。部落に生まれた私にとって，部落に生まれなかった私にとってこの勉強をするってどういう意味があるんな。それは自分がどんな状況にあろうが，どういうふうに生きようが本当に安心して胸張って生きれる社会にしていくわけでしょ。自分自身を幸せにしていける社会にしていくわけでしょ。いろんな人とみんな巡り会うだろう，いろんなつながりがあるだろう，その中で多くの人を幸せにしながら自分もきっちり幸せにしていく，そういう生き方，そういう価値観を持って生きていく，そういうために学習していると思うんです。最後にね，全体学習の６回目にこの資料をみんなに提起した願いや思い，わかるか。３０年前の状況っていうのがどんなに切なかったか。言うぞ。みんなが，みんなのお父さんやお母さんがほんとに小さかった頃，30年前，部落差別がどんなに厳しくのしかかってきたか。部落差別をなくすっていうことが様々な差別，障害者の問題や在日の問題や様々な問題が日本の中に山積している，そういう問題を解決していくことになってきた。そういう取り組みがまだまだ完全にはできてない，でもその先人が先に生きた人たちががんばったことを，みんなが受けてこれからどうあるかどう生きるか。この学習に取り組んだことがこの場の雰囲気の感動に絶対終わらせない，みんな自身の確かな生き方になっていく。涙にうたれて発言したんでない。涙っていうんは，妙な感情に駆り立てますよ。その底にはやっぱり同情でしかないっていう部分がありますよ。おおかわいそうにっていうものがありますよ。そんな涙でない。きっちりそういうものを我が痛みとしてがんばっていく，怒りに変えていく。嘆くことでなくて怒ることだっていうことをきっちり持って生きていく。そういう自分にしていく。それはたった一人になっても差別に抗して生きるっていうことだ。そういう先人ががんばってきたこと，多くの人ががんばっていること，そういうことをみんなが胸に刻んでいってほしいと思います。今日岡本先生におい出ていただいた。一人ほんとにね生徒たちがいろんな形でいろんな人とつながっておる，そんな中で部落差別をなくす一番真ん中に立って生きておいでた人，永井先生からちょっとお願いします。

永井議長：ほんとに３年生の皆さん，よくがんばってきましたね。皆さん方のこの同和問題学習の中でそれぞれ気付かれた問題，私ずっと時間の許す限り全体学習に参加させてもらってるんですけれども，常に先生方が「自分の問題やぞ」と言葉を投げかけておられました。同和

問題学習がなるほど私たちのように対象地区に生まれた者なれば，それは自分の問題として捉えられるけれども，対象地区外に生まれた皆さん方がなぜ自分の問題としてこの同和問題学習を捉えられるんかなあということを常に関心を持って聞いておりました。しかし今日は本当に心からがんばったなあという言葉しか出せませんけれども，最後の全体学習の中でまず障害者問題に皆さん方が気付いてきた。先ほどあちらの方から言われておる障害者の方は，今は自分の身の回りにはあまりおられないでしょう。しかしながら皆さん方はこれからもうほど遠くなく成人していきます。自分が成人してこれから家庭を持った時に自分には障害者の子どもは生まれないという保証はないでしょう。「絶対に私には障害者の子どもは生まれない」という保証は何もないでしょう。だから先ほど言われたようにいつ自分の問題になるかわからない。とするならば，自分の問題としてこの障害者に対する差別意識を絶対になくさなければならない。これが少なくとも差別を，先生もさっきからおっしゃってるように差別に怒りを感じ，差別を憎む。そして自分自身が自らが差別をなくしていく。これが部落差別をなくし，いろいろな諸々の差別をなくしていく。私は部落解放運動は真の人間をこの社会につくり出そう，真の人間を先ほどから皆さん方の中からも出ておりましたが真の人間とは，人間として人から侮辱されたり軽蔑されたりののしられたり，またそういうことによって生活していく上の生活権いわゆる職業，就職に対して差別を受けたり。そういうことが一切ないような社会を作っていこう，という形で私も解放運動にほんとに21年，まる21年取り組んでおります。自分の心に自分自身の気持ちを常に振り返りながら，人間が人間を差別することがどれほど悪いか，ということを常に自分で反省しながら解放運動をやっておる。ここで一つの事例ですが，先ほどこの資料に基づいて就職差別を受けた件，そしてみなさんから自分はまだそういう差別に突き当たりませんけれどもいわゆる部落という形で結婚問題が反対されたというようなことを同和問題学習の中で勉強されたと思います。先ほど障害者，弟さんに障害があるということをお母さんにこの全体学習で言おうかと言った。あなたが差別されるけん言ってはいけないと言われたあの言葉ですが，少なくとも今は障害者というような形で障害者という言葉もいいか悪いかわかりませんけども，昔はですよ，差別語として言葉そのものが差別的で相手を侮辱する言葉があった。これを今現在の障害者に対してそういう言葉は差別ですよというものは意識にあるものが出てくるんですね。その言葉だけ直したからといって，差別意識がなくなるかということにはならん。だから先ほどからみなさんがおっしゃっておるように，やはりいろいろな形の中で友人や家族からいろんな知識を入れられる。そのことが皆さん方がこういう形の中でその言葉の悪さや矛盾したことや不合理がいけないことに少なくとも気付いていく。自分自身の問題ですね。ということで今でもそうですけどまだ完全になくなっていない，部落問題と同じようになくなっていませんけど，学習の中で就職差別，学校の先生も聞かなかった，会社も何も言わなかった，企業からも何も言わなかった，それが当たり前だろうと。それが普通やったろうと，常識やったろうということが出ていました。これは部落の人だけ差別があったんではないんですよ。今日一番話の中心になっておる障害者を持った人，家族に対してなぜ隠していくか，なぜ言えないかというと差別を受ける。どういう差別を受けるか。兄弟やおじさんやおばさんにそういう障害を持った人がいたら，部落の人が部落外の人と結婚をするのに部落差別を受けて結婚が破談になるように，障害者を持っていたら「あそことは結婚してはいけない」こういう保護者がお

る。という形の中で結婚でも差別を受ける。障害を持った人だけでないんですよ。その身内みんなが差別を受ける。就職についてもそうです。職業によったらいろいろ皆さん方も高校に入って行ったら，また就職についての14項目といういろんな自分にとって関係のない職歴とか学歴とかいろんな形の中で相手から聞かれる。そういうことを全部明らかにして障害を持った兄弟がないか就職問題にも差別を受けてきたわけです。現実にあるわけです。これは十数年前ですけれども，ある先生が同和教育主事になられた。私の所へ「主事になりました，お願いします」とあいさつに来てくれた。私は言葉が悪いものですから「先生，あなた自身は知らんけど，あなたの地区はものすごく部落差別がきつい。先生同和教育主事って何するんや」その先生いわく「私は同和地区，部落のために主事はしません」「なぜや」「私自身のために同和教育主事を選びました」「なんでや」「実は私がまだ小学校，中学校の時代に父親がなくなった。そして母親の腕一本で自分の弟や妹を育てた。やっと高校を卒業して妹や弟や家族，お母さんのために大学に行きたいんだけれども就職して家計を助けようと。そう思ってある所に就職したが母子家庭というので，親が一方しかないというので就職差別を受けた。だから自分は今健在だけれども，いつどんなときに命がなくなるかもわからない。保証はない。もし自分が若くして亡くなって自分の子どもが，今のような差別構造を残していたらまた自分の子どもも孫もそういうことを繰り返すんだ。だからこの世の中から差別をなくすために主事になりました」こういうことを話し合いしたことがある。これでこそ自分の問題でしょ。いろんな形の中で先ほどの学習の中で社会がという言葉が出てきました。先生も言われましたね。社会というのは動物社会ではなく人間社会でしょ。人間一人ひとりの社会であるから，一人ひとりの人間がそういう差別意識をなくして一人の本当に人間として幸せに生きていけるような社会を作らなければいけないんですよ。これからまだまだこういう問題に皆さん方が，私が21年間解放運動でいろんな差別体験をしてきていろんな形で解放運動に取り組んできてますけれども，この問題をこうして解決していくという膏薬はないんですよ。みんなが一人ひとりが気付いて立ち上がる，差別に怒りを感じて，差別をなくすという形で立ち上がっていく。部落差別が一切の差別を支え諸々の差別，障害者差別からいろいろな問題いろいろな差別が部落差別を支えておる。こういう関係をこれからがんばって，まだまだこういう機会に話したいことはたくさんあるんですけど，時間の関係もありますので，高校に上がっても自らがたとえ一人でも「先生同和問題学習やってください」と，「やってください」とそういうふうに堂々と要求していく一員に，今は板野中学で仲間同士でこういう勉強をやってきたけれど，もう間近くして高校に上がっていく。おそらく本当に今の現状は高校では同和問題学習はほとんどやられていないという現状があります。だからそれをまだまだ自分は人間としての勉強を重ねていく，生きていくための勉強を重ねていく，高校に必要だということをここで皆さん方に，我々もいっしょに必要だということをいろいろな運動の中で高校へも迫っていく，県教委へも迫っていきます。これからがんばっていただくことを一言お願いします。

T 8：最後の全体学習ももうそろそろね幕を閉じなんだらいかんようになってきました。発表途切れ次第終了にしますので，発表する意志のある人だけ発表していってほしいと思います。

NY（男）さっきぼくが泣いている人に泣くなって言いったけどやっぱりそれは間違えとると指摘されて気付きました。泣いているっていうことはぼくが，周りのみんなが雰囲気を悪くして

泣かしているんだなあと思いました。Ｂさんに指摘されたんで自分は恥ずかしかったけど，うれしかったです。指摘されて全体学習で発表することで自分の発表はいいっていうか自分自身の発表だから，周りがどう反応するか聞きたかったんでぼくの発表の仕方が悪かったのかもしれないけど，全体学習で発表することによって自分自身もそういう知識が入ってくるし，だからＢさんありがとうございました。

T $_{9}$：頼るなよ，自分でしっかりと立っていけよ。

OY（女）ずっと黙っとこうと思っていたけど，私高校に入ったら育英会の奨学金をもらって行かしてもらいます。この前先生から決定通知もらいました。仲のいい友達に言おうかと思ったんですが，誰一人言えませんでした。でもこれ言わなかったら中学校卒業できないような気がします。私はこのことがあるから同和問題学習にも力が入るっていうところがあると思います。これ言うて後でみんながどんなに思うかってすごい不安です。まだ信じられてないっていうところもあるけど泣かないでがんばります。

T $_{10}$：今からがスタートですからね。それがお前のパワーなんだから。

YE（女）さっき私が言ったことにみんな意見とか言ってくれてうれしかったです。本当に障害者に対してどんなことを思っているのかを聞きたいっていつも思ってたけど，さっきも言ったように親に止められていたから，言えなかった。今日だって泣かないって思っていたけどやっぱり言っている一つの言葉に耐えきれなくなって泣いたてしまった。さっき阿部先生や森口先生が「かわいそうと思うな」っていうことを言おうと思ったんですが，先言われてしまったから，どう言っていいかわからないけど，障害者に生まれようとして生まれてきたんでないから，その人何の罪もないしかわいそうやなって思うのも自分という健常児に生まれてきてよかったって思っているから言えることかもしれんけど，やっぱりかわいそうやなって言われる立場から言ったら，そんなこと言ってほしいないから，かわいそうっていう言葉は言えないことだと思います。

T $_{11}$：解放していくんやな，自分自身を解放していくことや。

永井議長：障害者もね，両親も産まれてくる子どもも自分が好き好んで障害持って産まれてこようと思わないですよ。両親にしても障害持って産もうと思って産むんではないんですね。だからその人にも何も責任はないわけです。部落の私だって同じで産まれてみたら差別される地区に産まれたというだけのことであって，私たちも差別されようと思って部落に生まれてきたわけではないんです。障害児もそうでしょう。それとこれはどなたさんにとってもそうですけど，差別されるから言わないでおこう，この姿が先ほど学習された親子獅子ですか，Ｙ子さんはとにかく差別に対して立ち向かっていこうという怒りの獅子が描かれたと私は思うわけです。差別されるということに気付いた人が本当に立ち上がって，いろんな差別があり，その差別を知りながら気付きながらその差別を公認していく。ということが差別から逃げているんです。差別を公認しておる。それではいつまでもなくならんのです。だからその人たちが立ち上がっていく，差別に立ち向かっていく。お母さん一緒に差別があることがわかっているなら差別をなくすように一緒に立ち上がりましょう，ということで話し合いをしていただいたらいいと思います。

TM（女）前に自分が部落差別に直面して向かい合っていけない時，障害を持っていることと部落出身であることの両方のことを持っている人はすごいつらいんだろうかかなって思った時が

あって，でも実際は全然そういうふうなんではなくて同情する必要もなにもなくて，だけど障害者の人ってどうして生まれてくる時から平等でないんかなって思うけど，でも障害者差別にしても部落差別にしても自分が好きでなったわけでないし，それで逃げることもできんし，だから私は前部落であって障害を持っている人って，私は部落の人間やけど私以上につらくて私以上に苦しんでいるんじゃないのかなって思っていたけど，全然そういうことなくって，結局そういう考えを持っていて逃げていたのが私であることがわかったし自分のおじいちゃんも障害者やけど，生まれてきた時から障害者っていうんではなくて自分が，自分のせいで障害者になったっていう感じだからあまり私は同情もなにもしなかったし，そういう面では障害者差別っていうことに人事ではなかったように思うけど，やっぱり見下すような感じってあるから今までの全体学習だったら部落差別のことだけの話をしていたけど，今日は他の差別のこともいっぱい見えてきたと思うので本当に最後になるかもしれないけど，今日の全体学習はよかったと思います。

KR（女）私はＥさんの弟のことなんやけど，私がＥんちに電話した時，弟が出たことがあるんです。それで私が何を言ってもなんかわからないことを言うので，電話に出すなとか思ってしまって，向こうは一生懸命私に電話かけているのに私はそういうことを思ってすごく自分が情けなく思いました。

NA（女）さっき今までなんで涙出たのかわからなかったけど，さっき涙出たのはやっぱり親の間違いをこんなとこでえらそうに言っているのに親には何も言えない自分がすごい悔しかったから涙が出ました。こんなこと言う資格ないかもしれんけど，私って本当に矛盾している人間やなって思って，自分にすごい腹が立って自分で自分を殴ったろうかとか思って，でもそんな勇気がなくって自分って本当にあほな人間やなって思いました。

T_{12}：ありがとう。他ないですか。もう今言っておかないと帰って寝れないと思う人だけ発表してください。

KK（女）今の私にはいとこも親戚も兄貴も身体障害者じゃないけど，Ｅちゃんみたいに，もし兄弟に身体障害者がいたらつらい気持ちはわかるけど，なんて言ったらいいかわからんけど，自分にはそういう人はいないけど，できるだけＥちゃんの力になってあげたいし自分にもしそういうことがのしかかってきたっていうたらおかしいけど，そういうふうになってきたら自分は逃げないでそのことに対して今よりもっと真剣に考えていこうと思いました。

YE（女）Ｋさんありがとう。Ａちゃんのことなんやけど，親っていうのは同和問題学習とかやってないわけでしょう。全体学習とか。だからわかってくれてないのよ。私も３年の初めの頃は部落問題のこと，お母さんやお父さんと話していたけどなんか難しいことばっかり言って何も自分の意見言ってくれなかったから，なんかすごい腹立って「知るか」って言って学校に出てきた時もあって，Ａちゃんの気持ちってよくわかったから，親に言っていかないかんてことは私たちが同和問題学習に本当に取り組んでいけたかどうか試す機会やと思うから，がんばってみて。

YH（女）さっきＡちゃんやが言ってたけど，うちの家はお母さんとかはあまりそういうことは言わないけど，やっぱりおじいちゃんとかおばあちゃんがけっこう言ったりして，夜ご飯食べている時とかに言ったりしたら，ついおもいっきり言い合いになったりする時に全然わかってくれないけど，そういうふうにわかってくれないのに言っている自分ってなんか情けない

けど，やっぱり家のばあちゃんとかにわかってもらおうと思ってずっと言っているけど，そのうちばあちゃんも話聞いてくれなくなって，もうあかんのかなあって思っていたけど，もうちょっとがんばってみようと思います。

IM（女）私はみんなと違って右手で字を書くことができないんだけど，小学校の時も中学校の時も別におかしいとは思ってなかったんだけど，小学校の時に右手で字を書くようにしてみなって言われた時になんか左手で字を書いたら悪いのかなって思って，そのまま別に気にしないで今まできたんだけど，私は別に左手で字を書くことを恥ずかしいとは思ってないからそのままの自分らしく生きていきたいと思います。

AS（女）私Ｅちゃんとは小さい頃頃よく遊んでいて，Ｅちゃんの家に初めて行った時，弟に会ってその時ドキッとしました。その時の自分は全然無神経っていうかそういうので，弟を白い目で見ていました。弟もＥちゃんも全部家の人も訴えていて，そのつらいことを言葉にはしないけど，すごい訴えていたことがあって，私はそれに気付いてあげれなくてつらかったです。でもＥちゃんやお母さんは弟のことをいっぱい教えてくれて，今まで全然気付かなかったけど，弟だって人間やし，私やって人間やし，それに気付いてあげれなかった私は，Ｅちゃんの友達だったのに，そんなこと思っていた私はすごく自分に腹立ちました。だからこれから強くなっていこうと思うので支えてください。

T_{13}：いろんな差別が渦巻く中でね，身体障害者差別の話題がメインで語られております。他にもいろんな差別があります。関西に行ったら在日韓国人差別がひどくすごくある。南アフリカに行ったら黒人差別がね，今非常な転機でニュース見てる人はわかると思いますけど，黒人差別なども絶対間違っているということで今展開されています。世の中にあるそういったありとあらゆる差別，ありとあらゆる不遇，常に最底辺に追いやられておる者，それを我が事としてとらえ活動していく運動していく，がんばり抜いていくってこと，それが実は自分自身のためだったってこと，自分自身のためであるんだってこと，そこに気付いてほしい。誰のためでもない，自分のためにしているんだってこと，そこに早く気が付いてほしい。いいですか。あらゆる差別を撤廃していくってことが自分自身のためにつながっていくんだってこと。その中でも最後は部落差別解消に戻ってこいよ。板野町で生まれ板野町で育ち，板野町で大きくなっていくんだから。この問題抜きにしては絶対に語ることはできんから。

第６回の全体学習ということでかなり時間もオーバーしてやらしてもらいました。森口先生何か言いたいことがあるんですか。よろしいでしょうか。本当に胸の奥につっかえとったものを吐き出してくれ，またこの授業を本当に考えさせてくれるきっかけになってくれたみんなに心から感謝したいと思います。たくさんの人に感謝したいと思います。今後も一緒にがんばっていきましょう。生きている限り闘い続けていきましょう。終わりましょう。